

## 第21回(令和7年度 第2回)

### 和泉市立総合医療センター 経営評価委員会

#### 次 第

日時:令和8年3月27日(金)午後3時00分～

場所:和泉市役所 別館3-1会議室

#### 1. 開 会

#### 2. 議 題

- ①令和7年度 運営状況(4月～12月)について … (資料1)
- ②令和7年度 経営強化プラン進行管理(PDCA)チェックシート … (資料2)  
兼経営評価シート(4月～12月)について
- ③令和8年度 和泉市立総合医療センター事業計画書(案) … (資料3)  
について

#### <資 料>

##### 委員・出席者名簿

資料1 令和7年度運営状況(4月～12月)

資料2 令和7年度 経営強化プラン進行管理(PDCA)チェックシート  
兼経営評価シート(4月～12月)

資料3 令和8年度 和泉市立総合医療センター 事業計画書(案)

#### <参考資料>

参考資料1 和泉市消防本部 救急搬送件数(4月～12月)

参考資料2 救急搬送患者の応需率(4月～12月)

参考資料3 診療科別 紹介患者数(4月～12月)

参考資料4 診療科別 逆紹介患者数(4月～12月)

参考資料5 診療科別単価 前年度比較(4月～12月)

参考資料6 診療科別待ち時間(4月～12月)

参考資料7 医師時間外勤務時間資料

参考資料8 和泉市立総合医療センター経営強化プラン

参考資料9 和泉市立総合医療センター経営評価委員会規則

## 委員名簿

委員長

(敬称略)

氏名	所属
高杉 豊	公益財団法人 大阪国際がん治療財団 大阪重粒子センター 名誉理事長兼顧問

委員

(敬称略・50音順)

氏名	所属
鹿島 洋一	特定医療法人新仁会 新仁会病院 理事長
木村 佳弘	桃山学院大学 経済学部 経済学科 准教授
辻 幸代	関西医療大学 保健看護学部 学部長・学科長
露口 六彦	税理士法人パートナーズ関西 代表(会長) 税理士
吉岡 敏治	大阪急性期・総合医療センター 名誉院長

## 出席者名簿

和泉市立総合医療センター（指定管理者）

（敬称略・順不同）

氏名	所属
光富 徹哉	和泉市立総合医療センター 総長
松下 晴彦	和泉市立総合医療センター 病院長
川口 いずみ	和泉市立総合医療センター 看護部長
森 陽子	和泉市立総合医療センター 副看護部長
岩谷 理佳子	和泉市立総合医療センター 副看護部長
澤村 明子	和泉市立総合医療センター 副看護部長
隈崎 聡美	和泉市立総合医療センター 医療安全室長
大西 拓也	和泉市立総合医療センター 事務責任者
玉垣 精久	和泉市立総合医療センター 総務課 顧問
八巻 真弓	和泉市立総合医療センター 総務課 課長補佐
橋本 晃一	和泉市立総合医療センター 総務課 副主任

和泉市

氏名	所属
藤原 一也	子育て健康部長
高橋 直継	子育て健康部健康づくり推進室長
山本 国央	子育て健康部健康づくり推進室病院経営管理担当課長
奥田 秀憲	子育て健康部健康づくり推進室病院経営管理担当総括主幹
若松 良和	子育て健康部健康づくり推進室病院経営管理担当総括主査

令和7年度 運営状況(4月～12月)

# 目 次

1. 令和7年度 事業計画	1
2. 医療機能に係る指標	1
(1). 和泉市立総合医療センター経営強化プラン数値目標分	
①患者数の前年度実績との比較	
②月別1日あたり患者数の推移(入院)	
③月別1日あたり患者数の推移(外来)	
④診療科別1日あたり患者数(入院)(4月～12月)	
⑤診療科別1日あたり患者数(外来)(4月～12月)	
⑥病床利用率(4月～12月)	
⑦診療単価(4月～12月)	
⑧救急患者受入数(4月～12月)	
⑨和泉市消防本部 救急搬送(4月～12月)	
(2). その他、医療機能に係る指標	
①平均在院日数(4月～12月)	
②紹介率、逆紹介率(4月～12月)	
③手術件数(4月～12月)	
④健診(4月～12月)	
⑤医療事故等への対応(4月～12月)	
3. 職員数	8
①職員数の推移(非常勤職員含む)	
4. 患者サービス向上に係る取り組み	9
①取り組み状況	
②提案ポストへの投書件数	
5. 経営健全化に係る指標	11
①損益計算書(4月～12月)	
②貸借対照表	

# 1. 令和7年度 事業計画

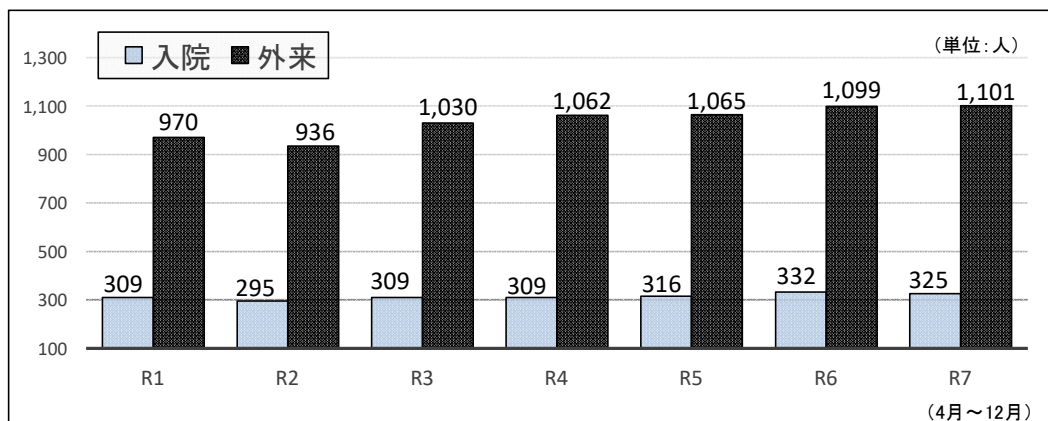
- ・主な取り組み  
 医師確保、急性期医療の拡充、がん医療を中心とした高度専門医療の拡大、  
 医療機器整備等により医療機能強化
- ・1日あたり患者数  
 入院 292人  
 外来 1,008人

# 2. 医療機能に係る指標

## (1). 和泉市立総合医療センター経営強化プラン数値目標分

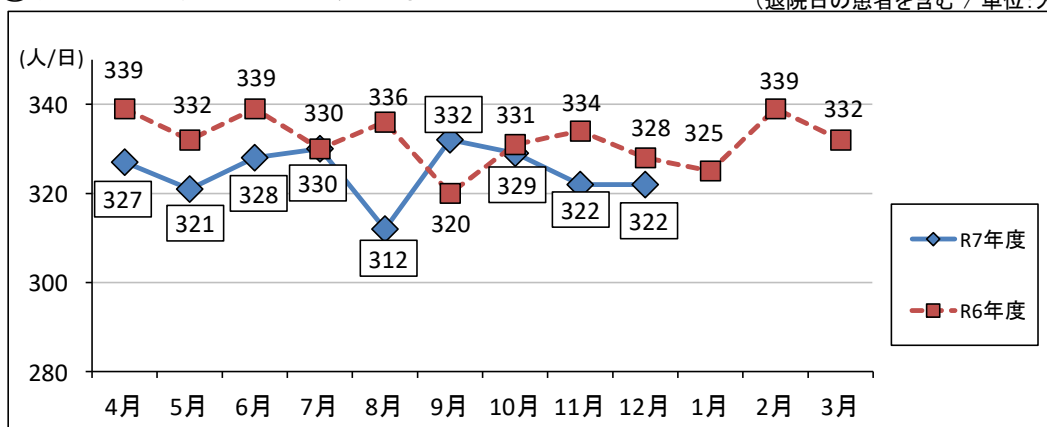
### ①患者数の前年度実績との比較

	実績(4月～12月分)			令和7年度 経営強化プラン目標値 (4月～3月)
	令和7年度	令和6年度	比較(増減率)	
1日当たり入院患者数 (退院日の患者を含む)	325人	332人	▲7人 (▲2.1%)	292人
1日当たり外来患者数	1,101人	1,099人	2人 (+0.2%)	1,008人



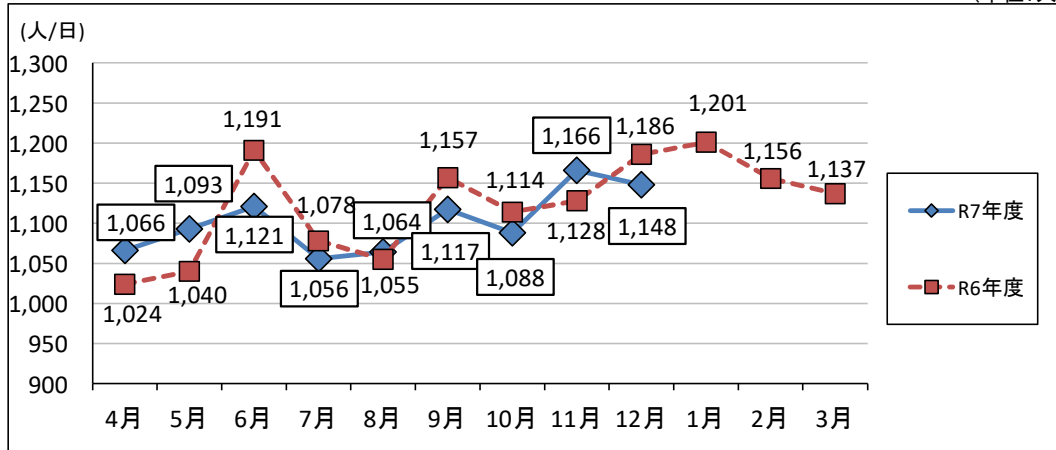
### ②月別1日あたり患者数の推移(入院)

(退院日の患者を含む / 単位:人)



### ③月別1日あたり患者数の推移(外来)

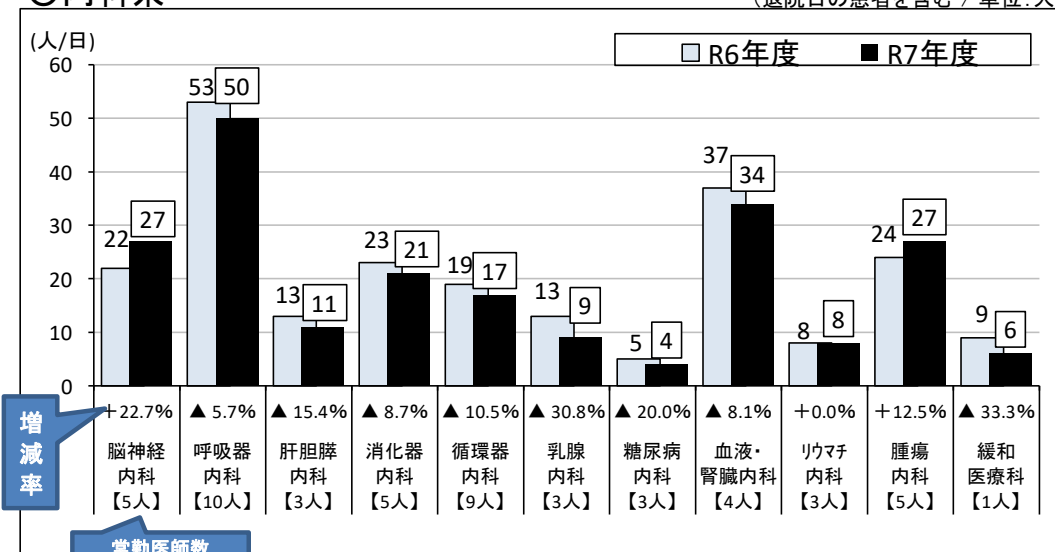
(単位:人)



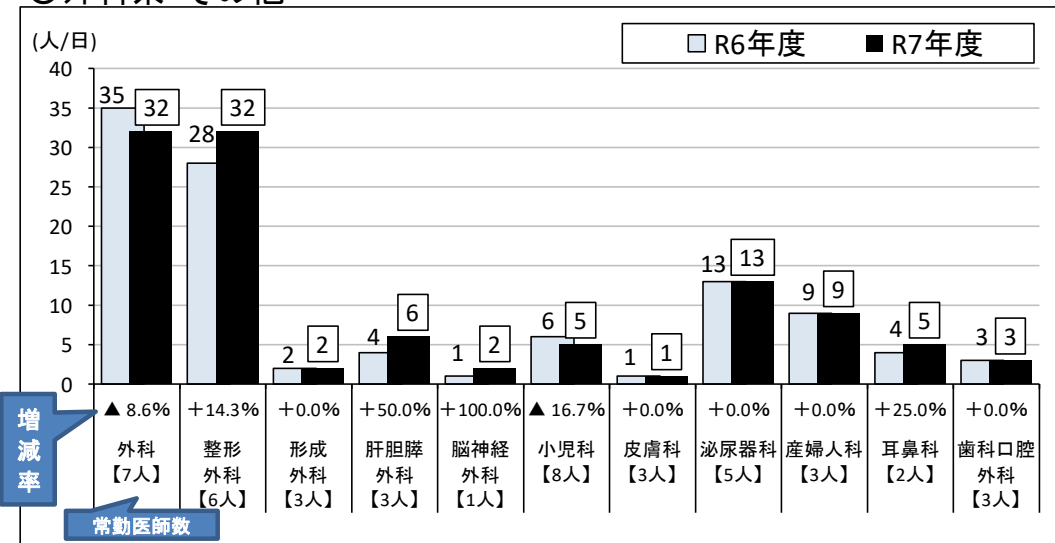
### ④診療科別 1日あたり患者数(入院)(4月~12月)

#### ○内科系

(退院日の患者を含む / 単位:人)

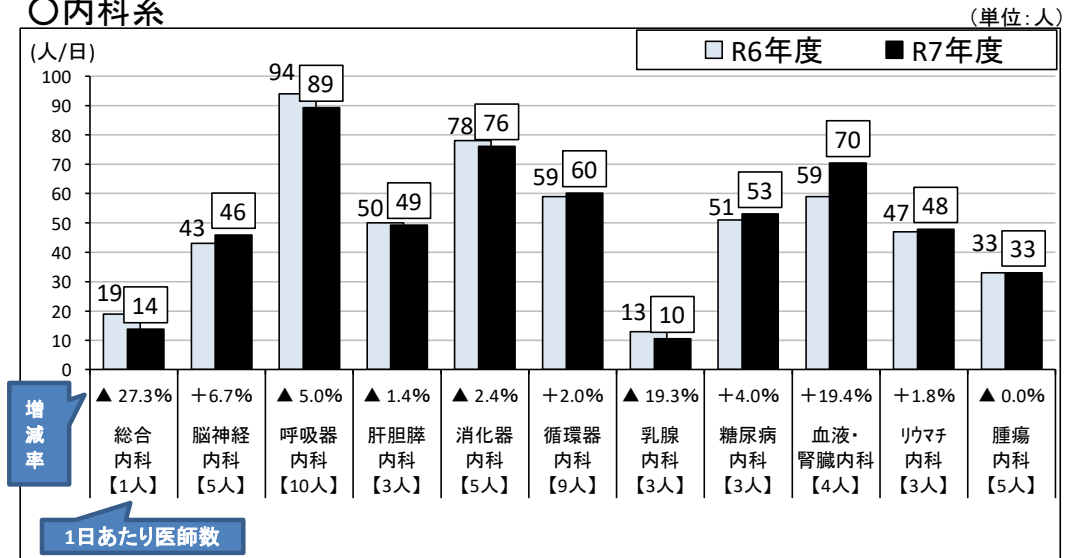


#### ○外科系・その他

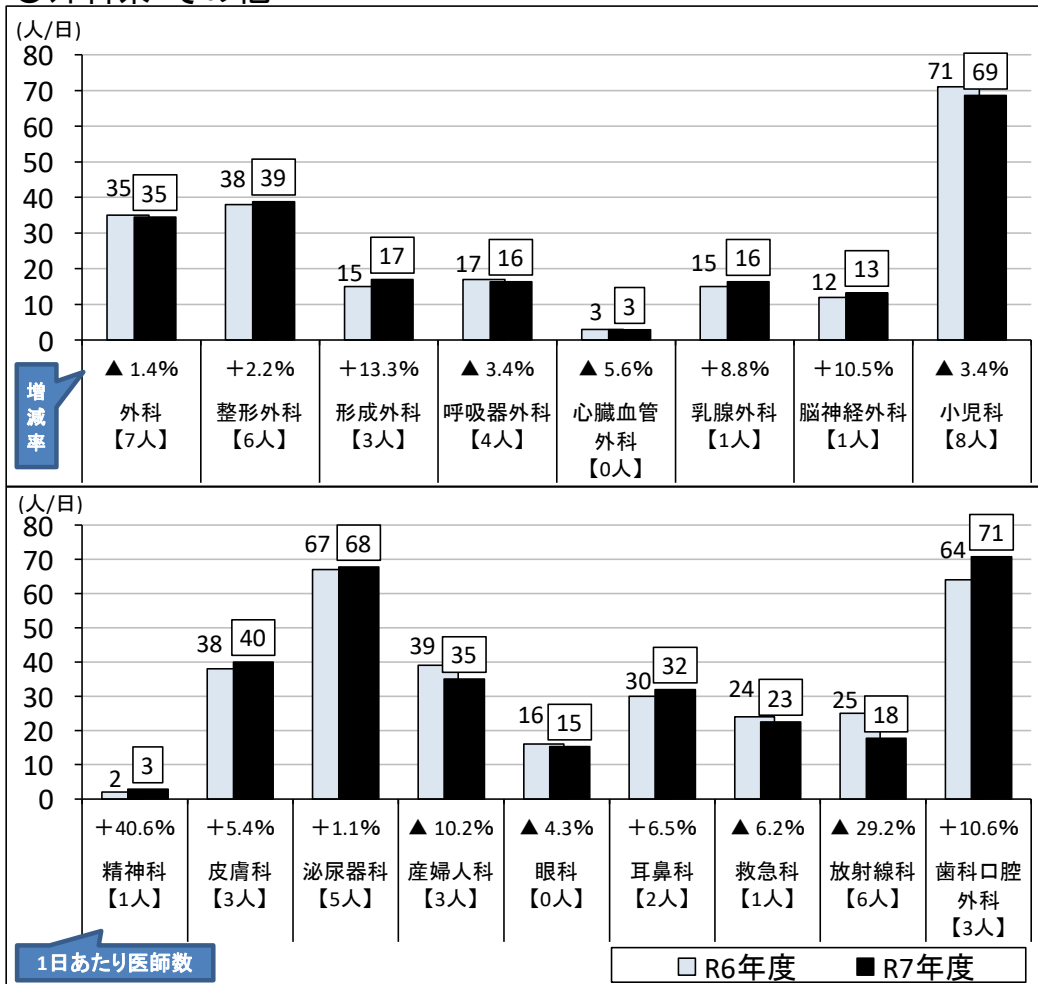


## ⑤診療科別1日あたり患者数(外来)(4月~12月)

### ○内科系



### ○外科系・その他



※診療日が5日未満の診療科は、実診療日にて算出しています。

⑥病床利用率(4月～12月)

(単位:人、床、日、%)

年度	利用率	令和7年度経営強化 プラン目標値 (4月～3月)	延患者数 ÷ ( 許可病床数 × 日数 ) × 100
令和7年度	97.0 %	95.0 %	81,879 ÷ ( 307 × 275 ) × 100
令和6年度	99.0 %	95.0 %	83,586 ÷ ( 307 × 275 ) × 100

⑦診療単価(4月～12月)

	実 績			令和7年度 経営強化プラン目標値 (4月～3月)
	令和7年度	令和6年度	比較(増減率)	
入院診療単価 (退院日の患者を含む)	81,656円	79,386円	2,270円 (+2.9%)	77,880円
外来診療単価	26,172円	24,386円	1,786円 (+7.3%)	23,150円

⑧救急患者受入数(4月～12月)

(単位:人、%)

診療科	実 績		前年度 比較	実 施 状 況
	令和7年度	令和6年度		
小児科	1,805	2,144	▲ 339 (▲15.8)	毎週火曜日19:00～翌6:00 第2,4,5土曜日23:00～翌6:00
内科系 外科系	8,570	9,191	▲ 621 (▲6.8)	終日実施
合 計	10,375	11,335	▲ 960 (▲8.5)	
搬送者数	2,792	2,761	+31 (+1.1)	
搬送者の うち入院	960 (34.4%)	874 (31.7%)	86 (+9.8)	

⑨和泉市消防本部 救急搬送(4月～12月)

(単位:人、%)

区分	令和7年度	受入率	令和6年度	受入率	前年度比較 (増減率)	令和7年度 経営強化プラン 目標値 (受入率)
和泉市立 総合医療センター	1,813	23.6	1,767	23.0	+46 (+2.6)	28.0%
市内民間病院	474	6.2	2,682	34.8	▲ 2,208 (▲82.3)	
市 外	5,403	70.2	3,250	42.2	+2,153 (+66.2)	
合 計	7,690		7,699		▲ 9 (▲0.1)	

(和泉市消防本部統計より)

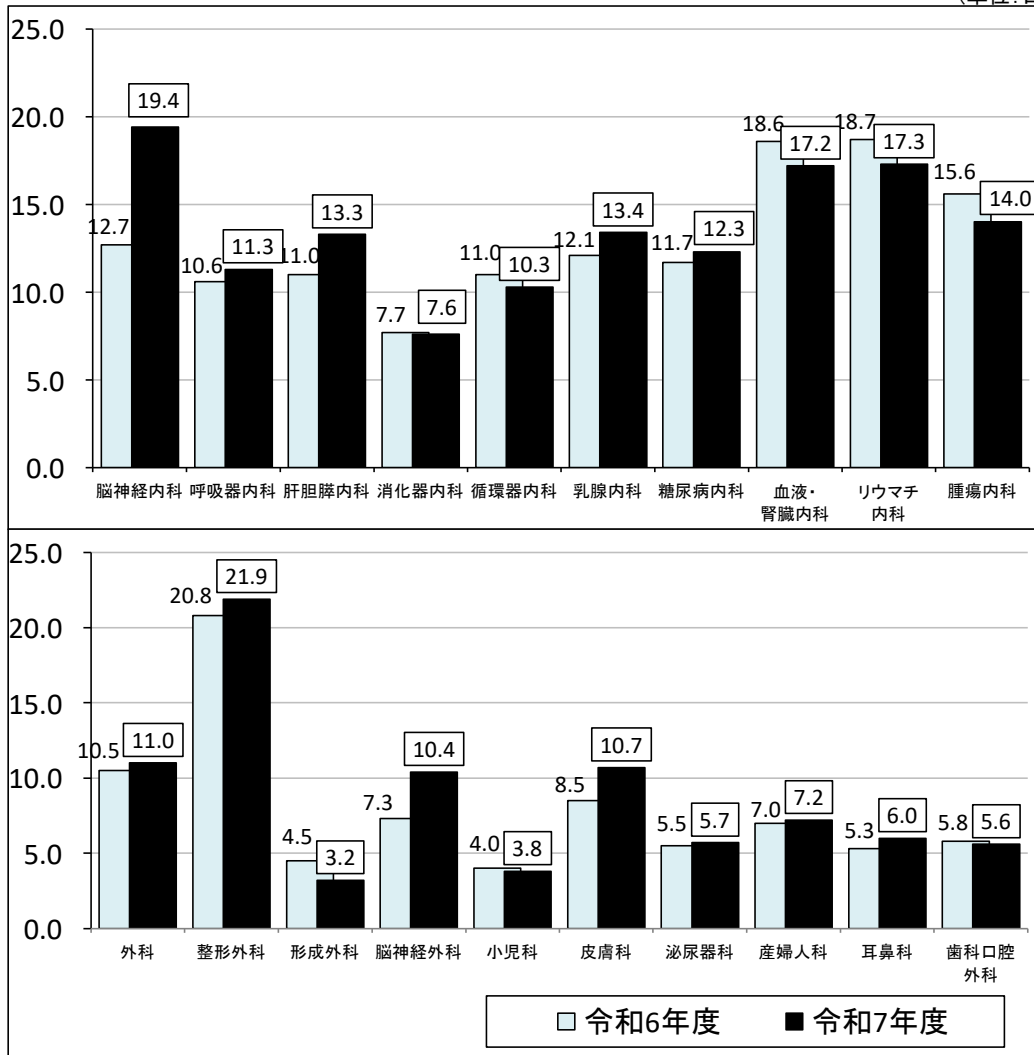
(2). その他、医療機能に係る指標

①平均在院日数(4月～12月)

(単位:日)

	令和7年度	令和6年度	増減
全診療科平均	11.1	10.6	0.5

(単位:日)



②紹介率、逆紹介率(4月～12月)

	令和7年度	令和6年度	差
紹介率	68.8 %	70.8 %	▲2.0%
逆紹介率	92.5 %	85.2 %	+7.3%

③手術数(4月～12月)

(単位:人、%)

指 標	令和7年度		令和6年度		差		増減率(%)	
	うち全麻		うち全麻		うち全麻		うち全麻	
手術数	外科	814 668	856 669	▲42 ▲1	▲4.9 ▲0.1			
	整形外科	397 378	369 353	+28 +25	+7.6 7.1			
	産婦人科	170 136	198 167	▲28 ▲31	▲14.1 ▲18.6			
	皮膚科	43 0	54 0	▲11 +0	▲20.4 0.0			
	形成外科	317 48	282 43	+35 +5	+12.4 11.6			
	泌尿器科	423 179	442 192	▲19 ▲13	▲4.3 ▲6.8			
	脳神経外科	20 9	19 9	+1 +0	+5.3 0.0			
	耳鼻いんこう科	138 137	131 128	+7 +9	+5.3 7.0			
	歯科口腔外科	152 118	153 115	▲1 +3	▲0.7 2.6			
	計	2,474 1,673	2,504 1,676	▲30 ▲3	▲1.2 ▲0.2			

④健診(4月～12月)

(単位:人、%)

指 標	令和7年度	令和6年度	差	増減率
人間ドック	1,902	1,897	5	+0.3%
特定健診	449	639	▲190	▲29.7%

## ⑤医療事故等への対応(4月～12月)

○レベル別件数

(単位:件)

	レベル	職種	令和7年度	令和6年度	事例(本年度)
インシデント	0～3a	医師	185	177	・好事例報告 ・転倒・転落後様子観察 ・点滴流量間違い ・内服薬服薬間違い ・点滴ルート自己抜去 ・胃管・バルンカテーテル自己抜去 ・患者誤認(検査案内など) ・血糖測定・採血取り忘れ等
		看護師	2,115	1,551	
		薬剤師	61	44	
		放射線技師	63	75	
		臨床検査技師	24	17	
		リハビリ	37	30	
		その他	287	221	
計	2,772	2,115			
アクシデント (医療事故)	3b	医師	9	7	<重複事例報告あり> ・転倒・転落・体位変換などによる骨折など 9件 ・処置・手術関連合併症 12件
		看護師	11	11	
		薬剤師	0	0	
		放射線技師	0	1	
		臨床検査技師	0	0	
		リハビリ	0	0	
		その他	0	0	
	計	20	19		
	4a～5	医師	1	0	術中の出血性ショック
		看護師	0	0	
		薬剤師	0	0	
		放射線技師	0	0	
		臨床検査技師	0	0	
		リハビリ	0	0	
その他		0	0		
計	1	0			
計 (3b～5)	医師	10	7	/	
	看護師	11	11		
	薬剤師	0	0		
	放射線技師	0	1		
	臨床検査技師	0	0		
	リハビリ	0	0		
	その他	0	0		
計	21	19			

※その他内訳:  
栄養科、ME

○種類別件数

(単位:件)

概要	令和7年度	令和6年度	増減
薬剤	865	626	239
輸血	30	12	18
治療・処置	116	115	1
医療機器等	132	112	20
ドレーン・チューブ	216	155	61
検査	258	228	30
療養上の世話	473	402	71
その他	703	484	219
合計	2,793	2,134	659

### (参考) 医療事故レベル

インシデント	0	エラーや医薬品・医療用具の不具合が見られたが、患者には実施されなかった
	1	患者への実害はなかった(何らかの影響は与えた可能性は否定できない)
	2	処置や治療行わなかった(患者観察の強化、バイタルサインの軽度変化、安全確認のための検査などの必要性が生じた)
	3a	単純な処置や治療を要した(消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与など)
アクシデント	3b	濃厚な処置や治療を要した(バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術、入院日数の延長、外来患者の入院、骨折など)
	4a	永続的な障害が残ったが、有意な機能障害や美容上の問題を伴わない
	4b	永続的な障害や後遺症が残り、有意な機能障害や美容上の問題を伴う
	5	死亡(原疾患の自然経過によるものを除く)

### 3. 職員数

#### ①職員数の推移(非常勤職員含む)

##### ■職員数の推移

(単位:人)

	R7.12	R7.4	R6.4	R5.4	R4.4	R3.4
医師	152.61	153.21	158.16	147.59	133.20	136.88
常勤	134	135	140	131	121	120
非常勤 (常勤換算)	117 (18.61)	126 (18.21)	139 (18.16)	135 (16.59)	121 (12.20)	129 (16.88)
看護部	416.19	447.36	402.22	397.84	398.50	391.07
常勤	390	419	377	372	370	363
非常勤 (常勤換算)	32 (26.19)	35 (28.36)	32 (25.22)	31 (25.84)	35 (28.50)	32 (28.07)
医療技術職	172.05	169.79	161.95	157.53	149.80	135.97
常勤	165	162	156	153	144	130
非常勤 (常勤換算)	9 (7.05)	10 (7.79)	8 (5.95)	6 (4.53)	8 (5.80)	9 (5.97)
合計	740.85	770.36	722.33	702.96	681.50	663.92
常勤	689	716	673	656	635	613
非常勤 (常勤換算)	158 (51.85)	171 (54.36)	179 (49.33)	172 (46.96)	164 (46.50)	170 (50.92)

※ 常勤換算人員は  $\frac{\text{勤務時間}}{7.5 \text{ 時間}} \div \left( \frac{1 \text{ 日の勤務時間(常勤)}}{7.5 \text{ 時間}} \times \frac{\text{月間勤務日数(常勤)}}{21.67 \text{ 日}} \right)$

##### ■常勤医師の状況

(単位:人)

	R7.12	R7.4	R6.4	R5.4	R4.4	R3.4
内科	1	1	1	2	1	1
循環器内科	9	9	10	10	9	8
呼吸器内科	10	10	10	10	9	7
消化器内科(内視鏡)	5	5	8	5	3	2
肝胆膵内科	3	3	3	3	3	3
血液・腎臓内科	4	5	5	4	4	4
内分泌・糖尿病内科	3	3	4	3	2	4
脳神経内科	5	6	6	4	3	4
乳腺内科	3	3	3	3		
腫瘍内科	5	5	3	4	9	8
緩和医療科	1	1	2	2	1	1
外科	15	15	15	15	15	15
消化器外科	7	7	8	8	8	8
心臓血管外科	0	0	0	1	1	1
乳腺外科	1	1	1	1	2	2
呼吸器外科	4	4	4	3	4	4
肝胆膵外科	3	3	2	2		
形成外科	3	3	3	2	1	1
整形外科	6	6	6	6	6	6
小児科	8	8	8	8	8	7
脳神経外科	1	1	1	0	1	2
泌尿器科	5	5	5	6	5	5
皮膚科	3	3	3	2	3	3
産婦人科	3	3	4	4	4	4
耳鼻いんこう科	2	2	1	2	2	3
リウマチ内科	3	3	3	3	3	3
救急科	1	1	1	1	1	0
リハビリテーション科	1	1	1			
放射線科	6	6	6	6	6	6
精神科	1	1	1	1	1	1
麻酔科	5	5	6	5	3	5
病理診断科	2	2	3	3	3	3
歯科口腔外科	3	3	3	3	2	2
研修医他	16	16	15	14	13	12
	133	135	140	131	121	120

## 4. 患者サービス向上に係る取り組み

### ①取り組み状況

サービス	時期	主な内容
出前講座・医療講演	4月～	健康づくりに資する、より専門的で実践的な知識・情報を提供することを目的に、1ヶ月間を通じて「健康寿命をのばすために」をはじめ、疾患別・臓器別などのテーマを設定した講演会を開催した。また、市内小学校2校において計3回、児童を対象とした「いのちの授業」を実施するとともに、教員を対象に「エビベン講習会」および「一次救命処置講習会」を行い、医療と教育現場の連携強化を図った。また市内の自治会や老人会からの依頼を受けフレイル予防、急変時の対応、ACP（人生会議）等をテーマにした講演を実施し、地域からの多様な健康ニーズに応える取り組みを行った。
和泉市民健康まつり	9月	令和7年9月14日（日）に和泉市民健康まつりにおいて、「医療従事者が演じるもしもの時の家族会議～笑顔と涙のACP劇場～」と題し、当院職員による市民向けの演劇形式の講演を実施した。本企画では、自宅から病院への救急搬送を起点に、家族間で生じる葛藤や意思決定支援に至る過程を30分間の劇として描き、ACP（人生会議）を通じて、本人が自身の人生において望む医療やケアについて、事前に話し合っておくことの重要性を分かりやすく伝えた。当日は1日2回公演を行い、いずれも満席となるなど市民の高い関心がうかがえた。
災害時医療訓練	12月	大規模災害訓練（令和7年12月14日）を実施 テーマ：システムダウンおよび自然災害で電子カルテが使用できなくなった時の対応 目的：今般、自然災害やランサムウェアなども含めて電子カルテが使用できなくなる想定も必要である。地域の中核病院として、少しでもスタッフが困惑しないことを目的に災害訓練を実施した。 具体的内容：模擬患者を設けて、その症例に従って各職種はオーダーやカルテ記載を紙カルテにて実施。カルテや処方箋、紙の検査オーダー等、各種用紙の運用方法ならびに整合性を検討した。

②提案ポストへの投書件数

(単位:件)

区分	令和7年度	令和6年度	主な内容例
総件数	151	170	
お礼	31	38	<p>■ 昼食の下膳をして下さった方が、デザートイチゴが一つ傷んでいた事を報告して下さいました。すぐさま、管理栄養士の方がお詫びに来てくれ、新しいイチゴを届けて下さいました。お二人とも、とても誠実な対応をして下さり、この病院への信頼が増しました。</p> <p>■ 小児科でお世話になりました。先生方は説明が丁寧で、子どもに対していつも笑顔で真摯に関わって下さり、とても感謝しています。また、看護師さんも、心のある関わり方で、すごく優しく安心して入院する事が出来ました。また、妊娠中の私の事まで気に掛けた対応をして下さり、本当に嬉しかったです。また、子どもに何かあれば、受診したいと思っていました。</p> <p>■ 弟には知的障害があり意思疎通が困難でしたが、色々ご配慮いただき、スムーズに治療していただく事が出来ました。本当にありがとうございます。皆さんの口調や物腰が柔らかく、弟の安心感にも繋がりました。この経験が弟にとっても学びとなり大変嬉しく思っています。</p>
苦情・要望等	120	132	
設備	37	45	<p>■ 病棟のトイレが汚い。男女一緒の仕様だからだと思います。 ⇒現状以上に注意して清掃を実施いただくよう、常駐の委託担当業者に周知を行なった。</p> <p>■ 洗面所の水の出る時間が短すぎる。洗顔も出来ない。 ⇒設備係にて対応可能な案件であった為、迅速に対処した。</p> <p>■ 2階の男女トイレ間の長椅子について。手すりがあるのに、なぜ、長椅子を置くのでしょうか。車椅子を利用している身にとっては、改善していただきたい事柄です。 ⇒外来看護師長と検討の上、迅速に撤去した。</p> <p>■ 増築棟の工事の為か東側の非常階段に板を張って塞いでいますが、使用出来ないのでは？入院の案内には記載されていますが、入院時何の説明も無かったです。確率は低いと思いますが対策をされた方が良いと思う。 ⇒間仕切り板に掲示はしていたが、院内各所の避難経路図上にも「工事中」のシールを貼り、対処した。</p>
接遇	33	44	<p>■ 夜勤帯のスタッフ間の話し声や笑い声が気になる事がある。ある程度は聞き流すが、あまり大きいと「どうかな」と思う。 ⇒特に、夜間帯は音が響く事を念頭に置いた上、私語は慎むよう、院内全体に周知を行なった。</p> <p>■ 挨拶をしないスタッフがいる。受付票を出す時も知らん顔です。改善を望みます。 ⇒該当部署の所属長より指導済、及び、院内全体に周知を行なった。</p> <p>■ 海外のスタッフに向けての指導が、少し厳しいと思いました。適切な指導を行なうよう、注意をお願いします。 ⇒他者が見て威圧的に感じられないようにし、ゆっくりとした口調で説明する事を心掛けていくよう、指導を行なった。</p> <p>■ 患者がたくさんいる中で、電話口でへらへら笑って、指で髪をクルクル回して不快でした。 ⇒該当部署の所属長より指導を行ない、再発防止を徹底した。</p>
その他	50	43	<p>■ 会計窓口でファイルを出す列と会計の精算機へ並ぶ列がややこしくて分かりづらい。車椅子、ベビーカーも通りなくそうです。並ぶ列をきちんと分けていただきたい。 ⇒混雑時、総合案内のスタッフを該当付近へ配置し、誘導・整備を実施している。ベルトパーテーションの方向の変更や待ち合い用の長椅子の移動等、引き続き、検討している。</p> <p>■ 夜、受診に来たら、玄関の所にゴキブリがたくさんいた。どうにかすべきでは？気持ちが悪い。 ⇒正面出入口・時間外出入口・救急車の出入口に、担当者より「毒餌の設置」とダクト付近等のゴキブリが好む場所を重点的に「薬剤散布」を実施した。</p> <p>■ 無料送迎バスを利用する為、バス停で待っていましたが、その日は車が多くて、バスは後方で待っており、そこで人を乗せたみたいでした。従来のバス停で待っていた私ともう一人は素通りされて、乗車する事が出来ませんでした。約束の時間にも間に合わず、使わなくて良いタクシー代も支払った。何より、運転手は何を思っ素通りしたのか。 ⇒該当部署の所属長より指導を行ない、再発防止を徹底した。</p>

## 5. 経営健全化に係る指標

### ①損益計算書(4月～12月)

(単位:千円)

科 目	令和7年度 (a)	令和6年度 (b)	前年度比 (a)-(b)	増減率 %
医業収益 (A)	12,831,293	12,420,666	410,627	3.3
入院収益	7,290,585	7,251,878	38,707	0.5
外来収益	5,360,700	5,012,554	348,146	6.9
その他医業収益	180,008	156,234	23,774	15.2
うち室料差額収益	117,116	110,638	6,478	5.9
うち文書料・その他	217,261	192,584	24,677	12.8
うち保険等査定減	▲ 154,369	▲ 146,989	▲ 7,380	5.0
医業費用 (B)	11,054,838	10,595,460	459,378	4.3
給与費	5,170,122	5,099,664	70,459	1.4
材料費	4,748,189	4,337,107	411,081	9.5
委託費	458,037	450,016	8,021	1.8
経費	654,728	681,974	▲ 27,246	▲ 4.0
研究研修費	23,762	26,698	▲ 2,936	▲ 11.0
医業損益 (A)-(B)	1,776,455	1,825,206	▲ 48,751	▲ 2.7
医業外収益 (C)	183,197	196,254	▲ 13,057	▲ 6.7
うち運営費補助金収益	6,570	11,456	▲ 4,887	▲ 42.7
うちその他医業外収益	176,627	184,798	▲ 8,170	▲ 4.4
医業外費用 (D)	174,101	212,104	▲ 38,003	▲ 17.9
うち指定管理者負担金	149,614	174,916	▲ 25,302	▲ 14.5
経常損益 ((A)+(C))-((B)+(D))	1,785,551	1,809,356	▲ 23,805	▲ 1.3
臨時収益 (E)	0	0	0	-
臨時費用 (F)	0	0	0	-
税引前利益 ((A)+(C)+(E))-((B)+(D)+(F))	1,785,551	1,809,356	▲ 23,805	▲ 1.3
医業収支比率 (A)÷(B)×100	116.1	117.2	▲ 1.1	
経常収支比率 ((A)+(C))÷((B)+(D))×100	115.9	116.7	▲ 0.8	
給与費率 (給与費)÷(A)×100	40.3	41.1	▲ 0.8	
材料費率 (材料費)÷(A)×100	37.0	34.9	2.1	

<b>経常収支比率</b> 経営強化プラン目標値(R7)	<b>109.0</b>
---------------------------------	--------------

## (うち医業費用明細) (4月~12月)

(単位:千円、%)

科 目	令和7年度		令和6年度		前年度比 (a)-(b)	増減率 %
	(a)	構成比 (%)	(b)	構成比 (%)		
医業費用	11,054,838	100.00	10,595,460	100.00	459,378	4.3
給与費	5,170,122	46.77	5,099,664	48.13	70,459	1.4
うち常勤職員給与	3,090,891	27.96	3,078,080	29.05	12,810	0.4
うち非常勤職員給与	741,965	6.71	714,085	6.74	27,880	3.9
うち法定福利費	573,518	5.19	563,097	5.31	10,421	1.9
うち賞与	643,500	5.82	630,370	5.95	13,130	2.1
うち退職金	6,766	0.06	6,039	0.06	727	12.0
材料費	4,748,189	42.95	4,337,107	40.93	411,081	9.5
うち医薬品費	3,438,156	31.10	3,033,362	28.63	404,794	13.3
うち医療消耗品費	892,773	8.08	875,555	8.26	17,219	2.0
うち検査材料費	292,848	2.65	306,110	2.89	▲ 13,262	▲ 4.3
委託費	458,037	4.14	450,016	4.25	8,021	1.8
うち検査委託費	106,645	0.96	108,681	1.03	▲ 2,037	▲ 1.9
うち給食委託費	50,939	0.46	50,933	0.48	6	0.0
うち医事委託費	7,013	0.06	7,168	0.07	▲ 155	▲ 2.2
うち清掃委託費	48,793	0.44	51,889	0.49	▲ 3,097	▲ 6.0
うち警備委託費	18,360	0.17	19,194	0.18	▲ 834	▲ 4.3
うち労務委託費	32,611	0.29	30,129	0.28	2,483	8.2
うち事務委託費	46,295	0.42	38,974	0.37	7,321	18.8
経費	654,728	5.92	681,974	6.44	▲ 27,246	▲ 4.0
うち消耗品費	14,843	0.13	14,397	0.14	446	3.1
うち消耗器具備品費	7,329	0.07	6,127	0.06	1,202	19.6
うち事務用品費	12,123	0.11	13,599	0.13	▲ 1,476	▲ 10.9
うち光熱水道費	117,141	1.06	114,271	1.08	2,870	2.5
うち広告宣伝費	7,367	0.07	8,782	0.08	▲ 1,415	▲ 16.1
うち募集費	11,920	0.11	10,671	0.10	1,250	11.7
うち保険料	9,026	0.08	15,913	0.15	▲ 6,887	▲ 43.3
うち寄付金	18,963	0.17	18,049	0.17	914	5.1
うち支払手数料	36,128	0.33	47,292	0.45	▲ 11,164	▲ 23.6
うち医療機器等リース・レンタル料	40,935	0.37	45,198	0.43	▲ 4,264	▲ 9.4
うち減価償却費	40,333	0.36	43,178	0.41	▲ 2,845	▲ 6.6
うち修繕費	34,910	0.32	43,434	0.41	▲ 8,524	▲ 19.6
うち機器保守料	119,108	1.08	109,066	1.03	10,042	9.2
研究研修費	23,762	0.21	26,698	0.25	▲ 2,936	▲ 11.0

## ②貸借対照表

(単位:千円)

科 目	R7.12.31現在(A)	R6.12.31現在(B)	増減(A)-(B)
<b>【流動資産】</b>	<b>【 12,157,642 】</b>	<b>【 12,683,358 】</b>	<b>【 ▲ 525,717 】</b>
現金預金	15,929	16,564	▲ 635
医業未収入金	2,719,939	2,673,487	46,452
未収金	108,211	99,827	8,384
薬品	168,400	153,091	15,309
診療材料	38,117	38,049	68
その他貯蔵品	2,173	2,760	▲ 587
前払費用	62,564	84,885	▲ 22,322
仮払消費税	603,217	573,061	30,156
貸倒引当金	▲ 5,640	▲ 6,007	367
大阪本部勘定	8,442,030	9,048,091	▲ 606,061
仮払金	520	2,255	▲ 1,735
その他流動資産	2,183	▲ 2,704	4,887
<b>【固定資産】</b>	<b>【 4,104,867 】</b>	<b>【 1,683,382 】</b>	<b>【 2,421,485 】</b>
(有形固定資産)	( 4,090,149 )	( 1,666,229 )	( 2,423,920 )
建物	100,455	114,566	▲ 14,111
構築物	8,634	9,679	▲ 1,045
医療機器	55,783	65,088	▲ 9,305
その他器械備品	14,572	18,085	▲ 3,512
建設仮勘定	3,910,704	1,458,812	2,451,893
(無形固定資産)	( 9,881 )	( 11,385 )	( ▲ 1,504 )
他無形固定資産	9,881	11,385	▲ 1,504
(投資他資産)	( 4,836 )	( 5,767 )	( ▲ 931 )
保証金	4,188	4,188	0
長期前払費用	67	0	67
長期貸付金	581	1,579	▲ 998
<b>【繰延資産】</b>	<b>【 7,889 】</b>	<b>【 9,328 】</b>	<b>【 ▲ 1,440 】</b>
繰延消費税	7,889	9,328	▲ 1,440
<b>資 産 合 計</b>	<b>16,270,397</b>	<b>14,376,068</b>	<b>1,894,329</b>
<b>【流動負債】</b>	<b>【 2,449,449 】</b>	<b>【 2,256,529 】</b>	<b>【 192,920 】</b>
買掛金	1,788,271	1,575,417	212,854
未払費用	82,409	81,034	1,375
未払給与	115,826	132,886	▲ 17,060
未払金	129,513	172,883	▲ 43,370
賞与引当金	111,015	82,768	28,247
預り金	111,419	136,454	▲ 25,036
前受収益	57,097	26,537	30,560
仮受消費税	53,900	48,550	5,350
<b>【固定負債】</b>	<b>【 480,300 】</b>	<b>【 445,910 】</b>	<b>【 34,390 】</b>
退職給付引当金	480,200	445,810	34,390
その他固定負債	100	100	0
負債の部計	2,929,749	2,702,439	227,310
<b>【積立金】</b>	<b>【 13,340,648 】</b>	<b>【 11,673,629 】</b>	<b>【 1,667,019 】</b>
繰越利益積立金	13,340,648	11,673,629	1,667,019
(うち当期純利益)	1,785,259	1,809,356	▲ 24,097
純資産の部計	13,340,648	11,673,629	1,667,019
<b>負債純資産合計</b>	<b>16,270,397</b>	<b>14,376,068</b>	<b>1,894,329</b>

令和7年度 経営プラン強化進行管理(PDCA)

チェックシート兼経営評価シート

(対象期間:令和7年4月1日～令和7年12月31日)

評価対象	NO	評価項目	第21回 R7 4-12月
			自己評価
役割・機能	1	和泉市立総合医療センターの役割・機能について	4
医療機能	2	施設利用者数等の状況について	5
連携の強化	3	地域医療機関との連携強化について	4
職員確保	4	必要なスタッフの確保と時間外勤務について	4
医療の質	5	医療の標準化・質の向上	3
医療機能	6	救急医療体制の整備について	4
医療の質	7	患者サービスの向上	4
経営指標	8	安定した病院経営	5
医療機能	9	高度・専門医療について	4
災害・感染症対策	10	災害時医療・感染症対策	5
合計点数			42

評点の考え方	点数
目標値を上回った。達成度100%以上	5点
目標値を達成できた。達成度90%以上	4点
目標値をほぼ達成できた。達成度70%以上	3点
目標値を下回った。達成度50%以上	2点
目標値を大きく下回った。達成度50%未満	1点

経営強化プラン進行管理（PDCA）チェックシート兼経営評価シート

1 和泉市立総合医療センターの役割・機能について

評価	評価	報告日	自己評価	評価委員評価	
	令和7年度（総括）				
	令和7年度(4-12月)	R8.3.27	4		
プラン年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
医療機能	<b>高度急性期</b> 283床<下記内訳> ●特定集中治療室管理料1：8床 ●小児入院医療管理料4：17床 ●急性期一般入院料1：258床  <b>回復期</b> 24床 ●緩和ケア病棟入院料1	<b>高度急性期</b> 283床<下記内訳> ●特定集中治療室管理料1：8床 ●小児入院医療管理料4：17床 ●急性期一般入院料1：258床  <b>急性期</b> 24床 ●緩和ケア病棟入院料1	<b>高度急性期</b> 283床<下記内訳> ●特定集中治療室管理料1：8床 ●小児入院医療管理料4：17床 ●急性期一般入院料1：258床  <b>急性期</b> 24床 ●緩和ケア病棟入院料1	<b>高度急性期</b> 283床<下記内訳> ●特定集中治療室管理料1：8床 ●ハフアエット入院医療管理料：最大24床 →（変更）特定集中治療室管理料1：14床 ●小児入院医療管理料4：17床 ●急性期一般入院料1：244床  <b>急性期</b> 24床 ●緩和ケア病棟入院料1	<b>高度急性期</b> 283床<下記内訳> ●特定集中治療室管理料1：8床 ●ハフアエット入院医療管理料：最大24床 →（変更）特定集中治療室管理料1：14床 ●小児入院医療管理料4：17床 ●急性期一般入院料1：244床  <b>急性期</b> 24床 ●緩和ケア病棟入院料1
自己評価 ○×	○	○	○		
外来機能向上	増築棟建築の設計	増築棟建築	がんセンター、難病センター、呼吸器センター運営	がんセンター、難病センター、呼吸器センター運営	がんセンター、難病センター、呼吸器センター運営
自己評価 ○×	○	○	○		
P プラン	医師数および外来患者数の大幅な増加に伴い、診療スペース・待合スペースが逼迫し、外来機能の低下が生じている。このため、以下の対応を実施する。 ・増築棟を新設し（令和8年2月27日 完成・引渡し予定）、併せて本館改修を行う。増築棟は令和8年4月1日より健診センター、ICU14床から順次オープンする。 ・がんセンターでは、外来化学療法室及びがん相談支援センターを拡張し、新たにがんゲノム外来を設置する（令和8年4月6日 オープン予定）。 ・市民の医療ニーズに対応するため、呼吸器センター、難病センターを新たに設置し3センターの機能強化を図りこの地域で弱いとされている領域に大きく貢献します。 ・救急患者の受入れ強化・拡充に向けて、高度急性期病床（283床）の一部を再編し、特定集中治療室（ICU）を8床から22床へ増床することで、集中治療機能の強化を図ります。 （変更理由：より高度で手厚い医療提供を可能とする体制を構築するため）				
D 実施状況	令和8年2月27日の完成・引渡しを受け、4月1日より増築棟の本格稼働を行う。				
C 自己評価の理由	当初はHCU（最大24床）を想定していたが、より高度で手厚い医療提供を行う体制とするため、ICU（現在8床、増築棟14床）22床を中心とした計画へ見直した。これにより、一部工程（設備・運用立上げ等）に調整が生じ、稼働開始は段階的な運用となる見込みである。				
A 今後の取組	本館改修工事（令和8年4月～8月）を実施する。これに伴い、ICUは増築棟の14床から稼働を開始し、段階的に運用を拡充する。併せて、本館透析室を12床から30床へ段階的に拡充予定。また、本館の健診センター跡は歯科口腔外科として移設拡張する予定である。併せて心臓リハビリテーションのエリアを拡張しニーズに答える。				

## 2

## 施設利用者数等の状況について

評価	評価	報告日	自己評価	評価委員評価	
	令和7年度（総括）				
	令和7年度(4-12月)	R8.3.27	5		
プラン年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
1日あたり入院患者数(人)	292	292	292	295	295
入院診療単価(円)	73,000	77,880	77,880	77,880	77,880
病床利用率(%)	95	95	95	96	96
1日あたり外来患者数(人)	1,008	1,008	1,008	1,050	1,100
外来診療単価(円)	23,000	23,150	23,150	23,150	23,150

P プラン	上記指標を目標に定める				
D 実施状況		R7(4-12月)	R7(計画)	指標達成率(%)	R6(4-12月)
	1日あたり入院患者数(人)	325	292	111.3	332
	入院診療単価(円)	81,656	77,880	104.8	79,386
	1日あたり外来患者数(人)	1,101	1,008	109.2	1,099
	外来診療単価(円)	26,172	23,150	113	24,386
	病床利用率(%)	97.0	95.0	102.1	99.0
	(参考)病床稼働率(%)	105.8			108.2
C 自己評価の理由	外来・入院患者数は目標値を超えている状況であります。病床利用率については、97%の状況です。				
A 今後の取組	病棟は満床に近い状態が続いているため、平均在院日数の適正化と病診連携の推進を図り、より多くの患者様に当センターを利用いただけるよう体制を整備する。				

3

地域医療機関との連携強化について

評価	評価	報告日	自己評価	評価委員評価	
	令和7年度（総括）				
	令和7年度(4-12月)	R8.3.27	4		
プラン年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
紹介率 (%)	73.3	73.7	74.2	74.6	75
逆紹介率 (%)	92.0	92.3	92.5	92.8	93.0
在宅復帰率 (%)	98	98	98	98	98
地域医療支援病院運営委員会	4	4	4	4	4
地域の医療介護研修会	8	8	8	8	8

P プラン	上記指標を目標に定める				
D 実施状況		R7 (4-12月)	R7 (計画)	指標達成率 (%)	R6 (4-12月)
	紹介率 (%)	68.8	74.2	92.7	70.8
	逆紹介率 (%)	92.5	92.5	100	85.2
	在宅復帰率 (%)	98	98	100	98.6
	地域医療支援病院運営委員会	3	4	75	3
	地域の医療介護研修会	9	8	112.5	11
	連携会件数	1回			
シンポジウム実施回数	0回				
地域医療機関向研修件数	8回				
地域医療機関従事者研修参加人数	148人				
C 自己評価の理由	<p>紹介率が目標未達であるが、紹介件数（実数）は増加している。2025年10月は1,880件と過去最高の件数であった。内視鏡検査や放射線検査の共同利用件数が全体を牽引した。診察・検査予約枠の拡大、緊急患者の応需など各科・各部署と調整しながら可能な限り地域の需要に応えられるよう努めた。</p> <p>また退院支援では長期入院患者への介入など積極的に起こない効率的な病床運用に繋がるよう努めた。</p>				
A 今後の取組	地域の医療機関・介護事業所等との連携をさらに強化し、地域医療支援病院としての役割を果たす。				

## 4

## 必要なスタッフの確保と時間外勤務について

評価	評価	報告日	自己評価	評価委員評価	
	令和7年度（総括）				
	令和7年度(4-12月)	R8.3.27	4		
プラン年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
医師	131	137	140	140	140
看護師	338	358	365	365	365
技師	126	130	135	140	145
薬剤師	27	30	32	35	38
臨床研修医の受入人数	8	9	9	9	9
時間外労働		A水準（960時間未満）	A水準（960時間未満）	A水準（960時間未満）	A水準（960時間未満）

P プラン	上記指標を目標に定める				
D 実施状況	(各年4月1日現在)				
		R7. 4	R7（計画）	指標達成率（%）	R6. 4
	医師	135	140	96.4	140
看護師	419	365	114.7	377	
技師	133	135	98.5	128	
薬剤師	29	32	90.6	28	
臨床研修医の受入人数	8	9	88.8	11	
		R7	R6		
時間外労働 960時間以上人数 割合		%	%	※参考資料6参照	
C 自己評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定看護師の育成</li> <li>・職員満足度調査</li> <li>・病院主催の説明会の開催のほか、学校訪問、看護学校の就職説明会、合同就職説明会への参加などの採用活動を行った。</li> <li>・医療安全研修会の開催</li> <li>・時間外削減への取組</li> </ul>				
A 今後の取組	医師の確保のために大学医局訪問や、内科専攻医採用説明会への参加、オンライン説明会の開催、労働時間の適正化及び診療機能の充実を図っていきます。				

## 5

## 医療の標準化・質の向上

評価	評価	報告日	自己評価	評価委員評価	
	令和7年度（総括）				
	令和7年度(4-12月)	R8.3.27	3		
プラン年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
クリニカルパス使用率 (%)	52.8	53.4	53.9	54.5	55

P プラン	上記指標を目標に定める 医療の標準化や情報の共有化を通じたチーム医療の推進				
D 実施状況		R7 (4-12月)	R7 (計画)	指標達成率 (%)	R6 (4-12月)
	クリニカルパス 使用率 (%)	46.5	53.9	86.2	49.6
C 自己評価の理由	R7 (4-12月) のクリニカルパス使用率は46.5%で、R7年度計画 (53.9%) に対して比較すると現状比較の達成率86.2%。 また、R6 (総括 : 49.6%) と比較しても低下しており、適用対象症例におけるパス導入の徹底。一方で、診療計画表の活用を通じて標準化・情報共有を進める取組は継続しており、チーム医療推進の基盤整備は一定程度進んでいます。今後は、アウトカムのバリエーション (逸脱) を評価し、導入判断・運用手順の見直しを行うことで、計画値への到達を目指します。				
A 今後の取組	診療計画表を活用し、在院日数の適正化に取組みます アウトカムに関するバリエーション (逸脱) を定期的に評価し、逸脱要因 (適用対象の見極め、運用フロー、記録のばらつき等) を可視化したうえで、パス見直し・運用改善につなげます。				

## 6

## 救急医療体制の整備について

評価	評価	報告日	自己評価	評価委員評価	
	令和7年度（総括）				
	令和7年度(4-12月)	R8.3.27	4		
プラン年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
救急搬送者数(人)	3,800	3,900	4,000	4,100	4,200
和泉市消防本部からの救急患者受入率(%)	28	28	28	30	30

P プラン	上記指標を目標に定める				
D 実施状況		R7(4-12月)	R7(計画)	指標達成率(%)	R6(4-12月)
	救急搬送者数(人)	2,792	4,000	69.8	2,761
	(参考) 救急患者数	10,375			11,335
D 実施状況	＜市消防本部 救急搬送者数＞				
		R7(4-12月)	搬送率(%)	R6(4-12月)	搬送率(%)
	総合医療センター	1,813	23.6	1,767	23.0
	市内民間病院	474	6.2	2,682	34.8
	市外医療機関	5,403	70.3	3,250	42.2
	合計	7,690		7,699	
C 自己評価の理由	令和7年度(4~12月)の救急搬送者数は2,792人であり、目標である4,000人には達していません。現時点で(達成率69.8%)。ただし、和泉市消防本部からの救急患者受入件数は前年同期より46件増加。受入件数としては全体で前年同期より増加している。				
A 今後の取組	救急受入れの強化や、在院日数の適正化、さらなる効率的なベッドコントロールによる病床活用や、重症患者受入れのためのICU増床等により救急応需体制の強化を図る。				

## 7

## 患者サービスの向上

評価	評価	報告日	自己評価	評価委員評価	
	令和7年度（総括）				
	令和7年度(4-12月)	R8.3.27	4		
プラン年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
患者満足度 (%)	82.1	82.8	83.6	84.3	85
健康・医療相談件数 (件)	2,100	2,100	2,100	2,100	2,100

P プラン	上記指標を目標に定める。 在院時間における患者満足度を高める。																					
D 実施状況	患者アンケート調査による意見の集約を行っている。																					
		R7 (4-12月)	R7 (計画)	指標達成率 (%)	R6 (4-12月)																	
	健康・医療相談件数 (件)	1,789	2,100	85.1	1,563																	
	患者満足度 (%)	集計中	83.6	—	—																	
	<p>&lt;患者等満足度調査&gt; (単位：%)</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>R7 (4-12月)</td> <td>R6 (総括)</td> </tr> <tr> <td>入院患者満足度</td> <td>集計中</td> <td>89.9</td> </tr> <tr> <td>外来患者満足度</td> <td>集計中</td> <td>94.9</td> </tr> </table> <p>満足度調査結果に基づき、院内委員会で検討の上、以下のような取組を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・結果集計中</li> </ul> <p>&lt;外来待ち時間&gt; (単位：分)</p> <table border="1"> <tr> <td>平均待ち時間</td> <td>R7 (4-12月)</td> <td>R6 (総括)</td> </tr> <tr> <td>予約あり</td> <td>8:49</td> <td>9:36</td> </tr> <tr> <td>予約なし</td> <td>32:13</td> <td>30:56</td> </tr> </table>						R7 (4-12月)	R6 (総括)	入院患者満足度	集計中	89.9	外来患者満足度	集計中	94.9	平均待ち時間	R7 (4-12月)	R6 (総括)	予約あり	8:49	9:36	予約なし	32:13
	R7 (4-12月)	R6 (総括)																				
入院患者満足度	集計中	89.9																				
外来患者満足度	集計中	94.9																				
平均待ち時間	R7 (4-12月)	R6 (総括)																				
予約あり	8:49	9:36																				
予約なし	32:13	30:56																				
C 自己評価の理由	提案ポストに寄せられた患者の苦情、意見や要望に対しては、それらの内容とその対策について院内に掲示し、サービス向上につなげた。																					
A 今後の取組	提案ポストに寄せられた患者の苦情、意見や要望に対して委員会で検討し、組織として積極的に対応、職員周知及び研修・指導を実施する。サービスの向上、信頼される医療の実現を図る。																					

## 8

## 安定した病院経営

評価	評価	報告日	自己評価	評価委員評価																															
	令和7年度（総括）																																		
	令和7年度(4-12月)	R8.3.27	5																																
プラン年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度																														
経常収支比率（%）	112	109	109	108	108																														
修正医業収支比率（%）	110	108	108	107	107																														
医業費収支比率（%） （医業収入合計/医業費用合計）	110	110	109	108	109																														
給与費率（%） （人件費合計/医業収入合計）	42	42	42	42	42																														
材料比率（%） （医業原価合計/医業収入合計）	35	35	35	35	35																														
P プラン	上記指標を目標に定める 持続可能な医療サービスの提供に向けた安定した病院経営																																		
D 実施状況	<p>収支状況による収支率等</p> <p style="text-align: right;">（単位：%）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R7（4-12月）</th> <th>R7（計画）</th> <th>指標達成率（%）</th> <th>R6（4-12月）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>経常収支比率</td> <td>115.9</td> <td>109</td> <td>106.3</td> <td>116.7</td> </tr> <tr> <td>修正医業収支比率</td> <td>116.1</td> <td>108</td> <td>107.5</td> <td>115.7</td> </tr> <tr> <td>医業費収支比率 （医業収入合計/ 医業費用合計）</td> <td>116.1</td> <td>109</td> <td>106.5</td> <td>117.2</td> </tr> <tr> <td>給与費率 （人件費合計/医業 収入合計）</td> <td>40.3</td> <td>42</td> <td>104.2</td> <td>41.1</td> </tr> <tr> <td>材料比率 （医業原価合計/医 業収入合計）</td> <td>37</td> <td>35</td> <td>105.7</td> <td>34.9</td> </tr> </tbody> </table>						R7（4-12月）	R7（計画）	指標達成率（%）	R6（4-12月）	経常収支比率	115.9	109	106.3	116.7	修正医業収支比率	116.1	108	107.5	115.7	医業費収支比率 （医業収入合計/ 医業費用合計）	116.1	109	106.5	117.2	給与費率 （人件費合計/医業 収入合計）	40.3	42	104.2	41.1	材料比率 （医業原価合計/医 業収入合計）	37	35	105.7	34.9
	R7（4-12月）	R7（計画）	指標達成率（%）	R6（4-12月）																															
経常収支比率	115.9	109	106.3	116.7																															
修正医業収支比率	116.1	108	107.5	115.7																															
医業費収支比率 （医業収入合計/ 医業費用合計）	116.1	109	106.5	117.2																															
給与費率 （人件費合計/医業 収入合計）	40.3	42	104.2	41.1																															
材料比率 （医業原価合計/医 業収入合計）	37	35	105.7	34.9																															
C 自己評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>入院患者・外来患者の増による医業収益の増等から、前年度同様、健全経営を実施できている。</li> <li>診療材料費、医薬品費、光熱水費、委託費等増加傾向にあるので医業収益を見据えながら費用の適正化をおこなった。</li> </ul>																																		
A 今後の取組	診療材料費、医薬品費、光熱水費、委託費等の増加により医業費用は上昇傾向にある。これを踏まえ、救急受入れ体制の強化と在院日数の適正化を推進し、収益性・効率性の一層の向上を目指す。																																		

## 9

## 高度・専門医療について

評価	評価	報告日	自己評価	評価委員評価	
	令和7年度（総括）				
	令和7年度(4-12月)	R8.3.27	4		
プラン年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
手術件数 (手術室内)	3,102	3,326	3,551	3,775	4,000

P プラン	上記指標を目標に定める 急性期病院としての機能強化と充実 ①手術件数 ②地域がん診療連携拠点病院																													
D 実施状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th>実績</th> <th>R7 (4-12月)</th> <th>R7 (計画)</th> <th>指標達成率 (%)</th> <th>R6 (4-12月)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>手術件数</td> <td>2,474</td> <td>3,551</td> <td>69.6</td> <td>2,504</td> </tr> <tr> <td>(うちダヴィンチ)</td> <td>246</td> <td></td> <td></td> <td>185</td> </tr> <tr> <td>放射線治療件数</td> <td>3,049</td> <td></td> <td></td> <td>4,787</td> </tr> <tr> <td>化学療法実施件数</td> <td>5,613</td> <td></td> <td></td> <td>5,675</td> </tr> </tbody> </table>					実績	R7 (4-12月)	R7 (計画)	指標達成率 (%)	R6 (4-12月)	手術件数	2,474	3,551	69.6	2,504	(うちダヴィンチ)	246			185	放射線治療件数	3,049			4,787	化学療法実施件数	5,613			5,675
実績	R7 (4-12月)	R7 (計画)	指標達成率 (%)	R6 (4-12月)																										
手術件数	2,474	3,551	69.6	2,504																										
(うちダヴィンチ)	246			185																										
放射線治療件数	3,049			4,787																										
化学療法実施件数	5,613			5,675																										
C 自己評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ R7 (4-12月) の手術件数は2,474件で、前年比較では30件減 (93%) となった。</li> <li>・ 手術領域では、ダヴィンチ手術が61件増 (246件) となり、ロボット支援手術の実施は増加している。</li> <li>・ 一方、がん治療関連では放射線治療件数が1,738件減 (3,049件)、化学療法実施件数が62件減 (5,613件) 手術件数は前年比で減少したものの、ダヴィンチ活用は増加している。一方で、放射線治療・化学療法の実施件数減少に対する要因整理と、地域連携・受入体制の強化が課題である。</li> </ul>																													
A 今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域連携の強化 (紹介元との情報共有、依頼・受入フローの明確化等) により、手術適応患者の紹介・受入を拡大する。</li> <li>・ ロボット支援手術の件数は増加傾向にあり、更に実施枠を確保し、実施件数を増やしていく。</li> <li>・ 医療スタッフのトレーニング強化 (術者・介助・周術期チーム) により、ダヴィンチを活用した高度手術を安定的に実施できる体制を整える。</li> <li>・ 手術スケジュールの最適化 (手術枠配分、入退院調整、術前検査の前倒し等) により、待機期間短縮と稼働率向上を図る。</li> </ul>																													

# 10 災害時医療・感染症対策

評価	評価	報告日	自己評価	評価委員評価	
	令和7年度（総括）				
	令和7年度(4-12月)	R8.3.27	5		
プラン年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
医療関連感染防止マニュアル	国基準に合わせ改訂	国基準に合わせ改訂	国基準に合わせ改訂	国基準に合わせ改訂	国基準に合わせ改訂
自己評価 ○×-	-	○	○		

P プラン	上記指標を目標に定める 新興感染症に備えた第一種協定指定医療機関の指定を受け感染症対策、また災害対策に平時から取り組む								
D 実施状況	<p style="text-align: center;">マニュアル改訂 <span style="float: right;">令和7年12月改訂</span></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">災害訓練日時</td> <td>令和7年12月14日（日）</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>23人</td> </tr> <tr> <td>参加部署</td> <td>医療センター全部署</td> </tr> <tr> <td>訓練内容</td> <td>システムダウンおよび自然災害で電子カルテが使用できなくなった時の対応</td> </tr> </table>	災害訓練日時	令和7年12月14日（日）	参加人数	23人	参加部署	医療センター全部署	訓練内容	システムダウンおよび自然災害で電子カルテが使用できなくなった時の対応
災害訓練日時	令和7年12月14日（日）								
参加人数	23人								
参加部署	医療センター全部署								
訓練内容	システムダウンおよび自然災害で電子カルテが使用できなくなった時の対応								
C 自己評価の理由	国基準の変更点やガイドライン更新に対応し、医療関連感染防止マニュアルを令和7年12月に改訂するなど、平時から感染対策の整備を継続した。あわせて、令和7年12月14日に医療センター全部署参加（23名）で、システムダウンおよび自然災害により電子カルテが使用できない状況を想定した訓練を実施し、非常時の対応手順を確認した。さらに、関係機関・行政・医師会との連携を図り、当院が中心となって地域を巻き込んだ感染対策に取り組んだ。以上より、感染症対策・災害対策ともに、計画に沿った体制整備と実践を進められている。								
A 今後の取組	災害：・今年度は、紙カルテについて・・次年度は、各マニュアル作成 感染対策：研修（全体必須研修：2回・受講率：1回目（95%）2回目（76%）12月現在全体の必須研修の受講率を全体をとって95%以上に目標を設定する。国基準・ガイドライン更新に対応した医療関連感染防止マニュアルの改訂を継続し、改訂要点を委員会を通じて現場へ確実に周知する。								

## 令和 8 年度 和泉市立総合医療センター 事業計画書（案）

令和 7 年度は、当院にとって大きな転換期となりました。かねてより進めていた増築棟が完成し、「がん・呼吸器・難病」の 3 センターの機能強化を図るとともに、11 月には日本医療機能評価機構による第三者評価の更新審査を受審し、医療の質のさらなる向上に努めてまいりました。また、指定を受けている地域がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院、および大阪府の難病医療連携拠点病院として、泉州地域の高度医療を支える役割を実直に果たしてまいりました。

令和 8 年度は、これらの新施設・機能を最大限に活用し、地域住民の皆さまに「最善・最適な医療」を提供する真価が問われる年となります。

特に、長年の念願であった ICU（集中治療室）の増床（8 床から 22 床）により、急性期医療と高度医療の提供体制は飛躍的に強化されます。これにより、これまで以上に重篤な患者さんを受け入れ、救急医療や高度な手術支援体制を盤石なものといえます。

また、昨今の厳しい医療情勢の中、地域医療の質の維持に不可欠な小児医療については、経営効率を優先することなく、徳洲会グループの「地域に必要な医療を継続する」という信念のもと、今後も維持・発展させていく所存です。

35 の診療科を擁する市民病院として、和泉市および近隣の医療・福祉施設との連携をさらに深め、市民の皆さまの生命と健康を守る最後の砦として、職員一丸となって「地域から選ばれ、人が集まるナンバーワン医療」を目指して邁進してまいります。

### 1 基本方針

市民の生命と健康を守る公立病院としての使命を果たすため、次に掲げる基本方針に沿って事業運営を行います。

#### 【ミッション】

泉州地域の皆さんの生命（いのち）と健康を守るために最善最適な医療を提供します

#### 【ビジョン】

地域から選ばれ、人が集まるナンバーワン医療を目指します

#### 【バリュー】

患者さんと職員の安全と安心を第一に考えます

患者さんの権利を尊重し、優しくかつ納得できる医療を提供します

情報を共有し、お互いを尊重する円滑なチーム医療を実践します

自己研鑽・生涯学習に努め、探求心をもち続けます

限りある資源を最大限活用し業務の効率化に務め、健全な病院経営を行います

次世代を担う人材の教育と育成に務めます

和泉市、近隣の医療・福祉施設等を尊重した連携を促進します

## 2 基本的な医療機能

### ① 外来診療科目(35科) 令和7年4月1日時点

内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、腫瘍内科、外科、整形外科、脳神経外科、小児科、泌尿器科、眼科、婦人科、耳鼻いんこう科、皮膚科、放射線科、精神科、血液内科、内分泌・糖尿病内科、腎臓・透析内科、脳神経内科、緩和ケア内科、肝臓・胆のう・膵臓内科、心臓血管外科、乳腺外科、呼吸器外科、形成外科、消化器外科、リウマチ内科、救急科、リハビリテーション科、麻酔科、病理診断科、歯科口腔外科、肝臓・胆のう・膵臓外科、乳腺内科

#### 診察日・受付時間

診 察 日 : 月曜日～金曜日(祝日を除く)  
土曜日診療の実施  
年末年始休日 12/31～1/3  
受付時間 : 8:00～11:30

### ② 病棟編成・看護基準

- ・稼働病床数 307 床 (ICU 22 床、急性期病床 261 床、緩和ケア 24 床)
- ・7 対 1 看護基準

### ③ 診療機能の向上

- ・診療体制の充実を図ります。(令和8年4月の常勤医師 141 名予定)
- ・国指定の地域がん診療連携拠点病院にふさわしい専門的ながん医療、地域連携協力体制、がん患者への相談支援及び情報提供を充実します。
- ・地域医療支援病院の医療連携活動の一環として、研修会等を実施し、高度医療機器の共同利用を行うなど地域医療の資質向上に貢献します。
- ・大阪公立大学医学部、近畿大学医学部との連携強化を図ります。
- ・グループ病院である岸和田徳洲会病院を協力・支援病院とし、バックアップ体制を継続します。

### ④ 医療・介護連携の推進

- ・地域における医療・介護の関係機関が連携することにより、包括的かつ継続的な在宅医療・介護を提供することができるよう地域の専門職の相談窓口となり、基幹的な役割を果たします。

### ⑤ 健康増進の取り組み

- ・人間ドック・特定健診などの各種検診の充実を図り、市民の健康維持・疾患の早期発見に貢献します。

- 医師等による医療講演会及び出前講座を行います。

#### ⑥ 医師、看護師等の人材育成

- 院内委員会による研修をはじめとし、指導・教育の充実を図ります。特に、看護師については、基礎教育に重点を置き、新たな教育プログラムを実施します。

### 3 政策的医療

#### ① 救急医療

- 22床へと大幅増床するICU(集中治療室)を最大限に活用し、これまで以上に高度な急性期医療を提供できる体制を構築します。
- 救急専門医を中心とした診療体制を維持・強化し、市内の他の救急告示病院と協力しながら、市外搬送件数の減少を目指します。
- 重篤な患者の対応については、引き続き三次救急医療機関である岸和田徳洲会病院との緊密な連携体制を継続します。

#### ② 小児医療

- 厳しい社会情勢や経営環境にあっても、地域医療の質を維持するために不可欠な小児医療の提供を継続し、縮小することなく維持・発展させます。
- 35診療科の重要な一翼を担う小児科において、一般診療から学童健診に至るまで、地域の子どもたちの健康を包括的に支える体制を堅持し、市民病院としての責務を果たします。
- 大阪母子医療センターとの「地域医療における住民の健康と小児から成人医療に関する連携協定」に基づき、小児から成人への移行期医療を含めた質の高いサービスを提供します。

#### ③ 災害時医療

- 地域医療支援病院に課せられた重要な使命として、災害発生時の迅速な医療救護体制を確立します。
- 増築棟の完成により強化された施設機能を活かし、大規模災害時における傷病者の受け入れや被災地への医療チーム(医師・看護師等)派遣のシミュレーションを強化します。
- 和泉市の地域防災計画に基づき、実践的な職員研修や訓練を継続的に実施します。また、「和泉市防災時保健・医療活動マニュアル」作成のため、調整を行います。

### 4 建物、設備、器具等の維持管理

建物及び設備、器具等の機能と環境を良好に維持するとともに、施設修繕や医療機器等

更新については必要性、緊急性を十分に見極め実施します。

## 5 患者サービス向上

- ① 提案ポストや患者アンケートによる待ち時間調査等から利用者の意見収集を行い、さらなる接遇改善に努めます。
- ② ホームページ、広報等の内容充実を行い、市立総合医療センターの効果的なPRを継続します。
- ③ 職員の接遇について、研修や個別指導を継続します。

## 6 和泉市立総合医療センター病院経営強化プランの取組

「和泉市立総合医療センター病院経営強化プラン」（令和6～9年度）に基づき中核病院として必要な医療提供体制の確保に努め、和泉市立総合医療センター経営評価委員会に同プランに基づく進行管理及び管理運営状況の評価を頂き、安定した病院運営に取り組めます。

## (参考資料) 令和8年度収支計画

(単位：人、円)

病床数		R8年度計画	R7年度見込み	増減 (A)-(B)	増減率
		(A)※3	(B)	(C)	(C)÷(B)×100
入院	1日平均患者数 ※1	301.5	299.1	2.4	0.8%
	1人1日当り診療額	94,720	88,777	5,943	6.7%
外来	1日平均患者数 ※2	779.7	735.7	44.0	6.0%
	1人1日当り診療額	26,662	26,588	74	0.3%

項 目 (単位：百万円)

入院収入計	10,424	9,692	732	7.6%
外来収入計	7,612	7,161	451	6.3%
診療収入合計	18,036	16,853	1,183	7.0%
室料差額収入	166	154	12	7.8%
文書料収入	29	27	2	7.4%
その他収入	79	69	10	14.5%
保険等調整増減	▲218	▲199	▲19	9.5%
医業収入合計	18,092	16,904	1,188	7.0%
医薬品費	4,759	4,455	304	6.8%
医療消耗品費	1,187	1,178	9	0.8%
その他	864	890	▲26	▲2.9%
医業原価合計	6,810	6,523	287	4.4%
医療機器リース料	51	49	2	4.1%
医療機器減価償却費	121	27	94	348.1%
医師給与	1,664	1,574	90	5.7%
その他	5,961	5,520	441	8.0%
人件費合計	7,625	7,094	531	7.5%
水道光熱費	187	157	30	19.1%
保守衛生費	17	13	4	30.8%
その他	1,499	1,380	119	8.6%
医業経費合計	1,703	1,550	153	9.9%
医業費用合計	16,310	15,243	1,067	7.0%
医業利益	1,782	1,661	121	7.3%
減価償却費	24	28	▲4	▲14.3%
その他費用計	24	28	▲4	▲14.3%
その他収益	279	289	▲10	▲3.5%
医業外収益合計	279	289	▲10	▲3.5%
その他費用	400	363	37	10.2%
医業外費用合計	400	363	37	10.2%
経常利益	1,637	1,559	78	5.0%
協力負担金	181	169	12	7.1%
税引前利益	1,456	1,390	66	4.7%

※1 年延入院患者数(退院日の患者を患者数に含める)÷年間日数

※2 年延外来患者数÷診療日数

※3 徳洲会グループ全体での計画調整により変更の可能性あり

和泉市消防本部 救急搬送件数(令和7年4月～令和7年12月)

<重症度別>

(括弧内は構成比 単位:人、%)

		死亡	重篤	重症	中等症	軽症	その他	令和7年度 合計(A)	令和6年度 合計(B)	前年同月比 (A)-(B)
市内	和泉市立総合医療センター	33	0	162	326	1,081	211	1,813 (23.6)	1,767 (23.0)	46 + 2.6%
	府中病院	0	0	7	6	31	6	50 (0.7)	2,282 (29.6)	▲ 2,232 ▲ 97.8%
	咲花病院	1	0	18	42	74	21	156 (2.0)	148 (1.9)	8 + 5.4%
	光生病院	0	0	36	11	56	12	115 (1.5)	111 (1.4)	4 + 3.6%
	大阪母子医療センター	1	0	7	31	80	16	135 (1.8)	120 (1.6)	15 + 12.5%
	その他	0	0	7	3	5	3	18 (0.2)	21 (0.3)	▲ 3 ▲ 14.3%
	市内計	35	0	237	419	1,327	269	2,287 (29.7)	4,449 (57.8)	▲ 2,162 ▲ 48.6%
市外	岸和田徳洲会病院	8	0	100	200	564	101	973 (12.7)	1,084 (14.1)	▲ 111 ▲ 10.2%
	馬場記念病院	0	0	37	107	179	54	377 (4.9)	410 (5.3)	▲ 33 ▲ 8.0%
	ベルランド病院	2	0	28	85	170	35	320 (4.2)	348 (4.5)	▲ 28 ▲ 8.0%
	近畿大学病院	2	0	28	75	138	69	312 (4.1)	227 (2.9)	85 + 37.4%
	堺市立総合医療センター	5	0	14	43	97	17	176 (2.3)	201 (2.6)	▲ 25 ▲ 12.4%
	岸和田市民病院	0	0	16	22	63	18	119 (1.5)	157 (2.0)	▲ 38 ▲ 24.2%
	泉大津市立周産期小児医療センター	0	0	0	8	65	4	77 (1.0)	77 (1.0)	0 + 0.0%
	泉大津急性期メディカルセンター	48	0	201	562	1,170	363	2,344 (30.5)	0 (0.0)	2,344 皆増
	高石藤井病院	0	0	10	31	51	4	96 (1.2)	91 (1.2)	5 + 5.5%
	その他	4	0	124	187	293	1	609 (7.9)	655 (8.5)	▲ 46 ▲ 7.0%
市外計	68	0	558	1,315	2,737	725	5,403 (70.3)	3,250 (42.2)	2,153 + 66.2%	
合計		103	0	795	1,734	4,064	994	7,690 (100.0)	7,699 (100.0)	▲ 9 ▲ 0.1%

救急搬送患者の受入実績および応需率の推移について  
(搬送件数・受入件数・お断り件数・入院件数の月次報告)

	R7年4月	R7年5月	R7年6月	R7年7月	R7年8月	R7年9月	R7年10月	R7年11月	R7年12月	合算
受入件数	279	322	305	333	351	304	304	293	300	2,791
お断り件数	104	109	109	133	124	110	97	135	96	1,017
合計	383	431	414	466	475	414	401	428	396	3,808
応需率	72.8	74.7	73.7	71.5	73.9	73.4	75.8	68.5	75.8	73.3
うち入院数	97	109	96	106	119	118	102	100	113	960
入院の割合	34.8	33.9	31.5	31.8	33.9	38.8	33.6	34.1	37.7	34.4

診療科別 紹介患者数(令和7年4月～令和7年12月)

(単位:人)

診療科名	令和7年度	令和6年度	増減	増減率 (%)
消化器内科	2,369	1,923	446	23.2
放射線科	1,591	1,329	262	19.7
呼吸器内科	1,534	1,554	▲ 20	▲ 1.3
歯科口腔外科	1,218	997	221	22.2
循環器内科	893	792	101	12.8
耳鼻いんこう科	783	653	130	19.9
泌尿器科	703	652	51	7.8
整形外科	665	596	69	11.6
肝胆膵内科	623	571	52	9.1
小児科	553	567	▲ 14	▲ 2.5
皮膚科	502	442	60	13.6
脳神経内科	480	379	101	26.6
内分泌・糖尿病内科	449	423	26	6.1
外科	394	353	41	11.6
血液・腎臓内科	353	356	▲ 3	▲ 0.8
リウマチ・膠原病内科	346	349	▲ 3	▲ 0.9
形成外科	337	290	47	16.2
産婦人科	330	273	57	20.9
総合内科	272	288	▲ 16	▲ 5.6
脳神経外科	245	241	4	1.7
腫瘍内科	139	92	47	51.1
呼吸器外科	125	123	2	1.6
救急科	111	95	16	16.8
緩和医療科	108	136	▲ 28	▲ 20.6
乳腺外科	102	92	10	10.9
眼科	99	95	4	4.2
心臓血管外科	59	53	6	11.3
精神科	52	54	▲ 2	▲ 3.7
乳腺内科	26	39	▲ 13	▲ 33.3
血液内科	0	0	0	0.0
腎臓・透析内科	0	0	0	0.0
病理診断科	0	2	▲ 2	▲ 100.0
合 計	15,461	13,809	1,652	12.0

※再診患者を含む。

参考資料 4

診療科別 逆紹介患者数(令和7年4月～令和7年12月)

(単位:人)

診療科名	令和7年度	令和6年度	増減	増減率 (%)
消化器内科	1,797	1,656	141	8.5
歯科口腔外科	1,456	1,298	158	12.2
放射線科	1,176	1,185	▲ 9	▲ 0.8
呼吸器内科	1,050	993	57	5.7
循環器内科	974	994	▲ 20	▲ 2.0
呼吸器外科	639	779	▲ 140	▲ 18.0
整形外科	621	537	84	15.6
耳鼻いんこう科	542	552	▲ 10	▲ 1.8
肝胆膵内科	470	447	23	5.1
内分泌・糖尿病内科	358	313	45	14.4
脳神経内科	334	267	67	25.1
泌尿器科	334	315	19	6.0
外科	225	217	8	3.7
血液・腎臓内科	208	223	▲ 15	▲ 6.7
総合内科	184	162	22	13.6
小児科	178	246	▲ 68	▲ 27.6
救急科	149	188	▲ 39	▲ 20.7
リウマチ・膠原病内科	133	131	2	1.5
眼科	100	101	▲ 1	▲ 1.0
腫瘍内科	94	124	▲ 30	▲ 24.2
脳神経外科	85	77	8	10.4
産婦人科	83	74	9	12.2
皮膚科	80	67	13	19.4
乳腺内科	57	112	▲ 55	▲ 49.1
乳腺外科	48	60	▲ 12	▲ 20.0
形成外科	32	38	▲ 6	▲ 15.8
心臓血管外科	28	32	▲ 4	▲ 12.5
精神科	17	22	▲ 5	▲ 22.7
血液内科	0	0	0	0.0
腎臓・透析内科	0	0	0	0.0
緩和医療科	0	4	▲ 4	▲ 100.0
合計	11,452	11,214	238	2.1

診療科別単価 前年度比較(4月～12月)

(常勤医師配属診療科のみ)

入院	令和7年度	令和6年度
外科	130,081円	122,251円
血液・腎臓内科	110,105円	103,085円
脳神経外科	105,639円	86,683円
循環器内科	98,501円	92,279円
産婦人科	92,292円	90,512円
泌尿器科	91,471円	88,445円
耳鼻いんこう科	87,176円	88,991円
整形外科	81,453円	81,389円
形成外科	80,075円	78,166円
歯科口腔外科	78,468円	74,787円
脳神経内科	73,479円	71,128円
消化器内科	70,870円	70,577円
小児科	66,979円	65,579円
乳腺内科	65,520円	63,173円
腫瘍内科	64,296円	60,836円
リウマチ・膠原病内科	62,163円	57,512円
呼吸器内科	59,501円	60,123円
肝胆膵内科	58,630円	56,930円
緩和医療科	58,179円	57,512円
皮膚科	57,970円	53,090円
内分泌・糖尿病内科	52,316円	48,973円
全診療科平均	81,656円	79,386円

外来	令和7年度	令和6年度
腫瘍内科	110,149円	102,812円
乳腺内科	101,796円	93,973円
脳神経内科	93,243円	86,327円
血液・腎臓内科	56,037円	54,254円
リウマチ・膠原病内科	34,133円	26,466円
消化器内科	31,672円	32,155円
放射線科	27,571円	29,933円
呼吸器内科	26,732円	26,052円
肝胆膵内科	23,645円	19,612円
泌尿器科	21,209円	17,891円
外科	16,233円	15,161円
内分泌・糖尿病内科	15,870円	14,155円
産婦人科	14,945円	17,018円
心臓血管外科	12,296円	12,484円
小児科	11,661円	11,119円
脳神経外科	10,844円	10,319円
循環器内科	10,809円	10,991円
整形外科	9,812円	9,335円
皮膚科	9,667円	8,122円
耳鼻いんこう科	9,180円	9,204円
形成外科	8,251円	7,727円
歯科口腔外科	7,359円	7,595円
精神科	6,598円	6,635円
緩和医療科	4,937円	6,616円
眼科	4,898円	4,839円
全診療科平均	26,172円	24,386円

診療科別待ち時間（4月～12月平均）

（単位 分：秒）

	予約あり		予約なし		
	R7	R6	R7	R6	
呼吸器内科	06:38	09:28	19:42	21:26	
循環器内科	07:31	09:50	20:33	19:06	
肝胆膵内科	07:22	10:37	30:34	29:11	
消化器内科	04:56	06:02	21:43	17:01	
内分泌・糖尿病内科	03:37	04:57	34:09	26:35	
リウマチ・膠原病内科	11:40	13:15	18:40	15:24	
乳腺内科	06:49	10:41	37:17	22:30	
腫瘍内科	13:36	11:13	21:25	28:23	
緩和医療科	03:21	05:40	17:20	48:50	
血液・腎臓内科	11:03	11:13	30:30	35:10	
脳神経内科	10:30	11:35	13:31	13:48	
総合診療科	02:49	06:03	16:16	18:31	
精神科	14:29	11:48	16:00	13:18	
眼科	05:53	06:27	15:07	16:29	
耳鼻いんこう科	08:48	07:00	31:58	30:58	
外科	消化器外科	06:06	07:36	31:05	32:27
	呼吸器外科	05:01	04:21	24:16	21:02
	乳腺外科	13:35	12:13	2:13:25	20:01
整形外科	13:03	09:17	19:12	19:58	
心臓血管外科	06:03	07:16	13:38	17:58	
脳神経外科	05:59	05:50	15:06	16:29	
泌尿器科	10:50	12:51	37:14	39:10	
産婦人科	14:50	14:57	39:15	40:18	
皮膚科	10:19	08:41	1:03:18	47:54	
形成外科	09:05	09:34	27:23	27:49	
小児科	06:29	07:42	11:49	17:00	
歯科口腔外科	05:38	06:32	1:34:56	1:34:45	
放射線科	02:18	03:24	29:33	23:23	
平均	08:49	09:37	32:13	30:36	

## 医師時間外勤務時間資料

(評価シート4.必要なスタッフの確保と時間外勤務についての補足資料)

960時間を超えない様に管理していることを表すため、700時間超の医師及び診療科を把握するもの。

### 時間外人数

時間数		人数	割合
1,000時間以上		0	0%
960時間以上	1,000時間未満	0	0%
900時間以上	960時間未満	0	0%
800時間以上	900時間未満	0	0%
700時間以上	800時間未満	0	0%
600時間以上	700時間未満	0	0%
480時間以上	600時間未満	5	4%
	480時間未満	129	96%
合計		134	

・12月迄の時間外について上記一覧表を作成

・診療科ごと個人700時間超人数 (考え方 $960 \times 3/4$ )

診療科	人数
合計	

・個人残業時間上位5名

	診療科	残業時間 累計	職務形態 (常勤・ 非常勤・ 研修医)
1	呼吸器内科	555	常勤
2	乳腺外科	543	常勤
3	産婦人科	521	常勤
4	初期研修医	512	研修医
5	放射線科	509	常勤

# 和泉市立総合医療センター 経営強化プラン（令和6～9年度）



令和6年3月

和泉市

はじめに

和泉市立総合医療センター開設者  
和泉市長 辻 宏康

私が市長に就任した平成 21 年当時、市直営の市立病院は、救急医療の停止や、経営の悪化、施設の老朽化といった大きな課題を抱えていました。これらを解決すべく病院の再生に取り組みましたが、現実のままならず、指定管理者制度の導入を決断したところ、幸いにも、徳洲会グループという日本一の医療グループにパートナーになっていただいたことで、再生のスタートを切ることができ、新病院建設事業に着手することができました。

平成 30 年 4 月に新病院として「和泉市立総合医療センター」を開設したことにより、24 時間 365 日の救急医療の再開を果たし、今や病床稼働率が 100%を超えるなど、府内の公立病院でも例を見ないような優良な病院になり、患者さまに選んでいただける病院となっています。

また、令和 3 年 3 月には国から「地域がん診療連携拠点病院」の指定、令和 4 年 3 月には大阪府から「地域医療支援病院」の承認も受けるなど、地域医療の資質向上に繋がっております。

私が市長に初当選した平成 21 年当時から抱いておりました、「かつて泉州一といわれた市立病院をもう一度再生したい」との思いが、こうして現実となっていることは本当にうれしく、胸が熱くなる思いです。

この度、令和 6 年度から令和 9 年度を対象期間に策定しました「和泉市立総合医療センター経営強化プラン」に基づき、和泉市立総合医療センター経営評価委員会の評価をいただきながら、さらなる市民の医療サービス向上に取り組むとともに、市民皆様の健康を守り、命を輝かせる宝石箱のような病院、泉州一の隆盛を誇った頃の市立病院を取り戻せるような病院づくりに取り組んでまいります。

## 【目 次】

経営強化プランの策定にあたり	1
I. 病院事業のこれまでの取組	
1. これまでの経過	2
2. 指定管理者制度導入以降の状況	2
(1) 運営状況	
(2) 地域がん診療連携拠点病院	
(3) 地域医療支援病院	
(4) 救急医療	
(5) 災害時医療・感染症対策	
(6) 医療機器の充実	
3. 経営強化プランにおける6つの視点の検証	8
(1) 役割・機能の最適化と連携の強化	
(2) 医師・看護師等の確保と働き方改革	
(3) 経営形態の見直し	
(4) 新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組	
(5) 施設・設備の最適化	
(6) 経営の効率化等	
4. 公立・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証要請の対応	16
II. 新たな展開～具体的取組～	17
1. 医療環境の向上	
2. 経営強化プランの実施状況の点検、評価、公表	
○別紙1 収支計画書（指定管理者）	18
○別紙2 収支計画書（病院事業会計）	19

## 経営強化プランの策定にあたり

令和 3 年度、国において病院や経営主体の統合を主眼とした「新公立病院改革ガイドライン」の後継として、新たに病院間の役割分担と連携強化により持続可能な地域医療提供体制確保のため経営強化を主眼とした「公立病院経営強化ガイドライン」が策定され、病院設置自治体に令和 5 年度までに「公立病院経営強化プラン」を策定するよう通知があった。

この通知を受け、平成 30 年 4 月に新病院として開院した和泉市立総合医療センター（以下「当センター」という。）は、さらなる経営基盤の確立、安定した運営等を行っていくうえで、中核病院として必要な医療提供体制を確保するため、「公立病院経営強化ガイドライン」に基づき、開設者和泉市長と指定管理者医療法人徳洲会は「和泉市立総合医療センター病院経営強化プラン（令和 6～9 年度）」（以下「経営強化プラン」という。）を策定した。

当センターは、本経営強化プラン計画期間中において公設民営化の主眼であった 24 時間 365 日救急体制の充実、さらなる安全で質の高い医療を目指し、新興感染症の感染拡大時等に備えた感染症対策強化及び後期高齢者増加による今後見込まれる救急搬送者増加に対応する等の目的で増築棟を建設する。

また、本市は、附属機関である和泉市立総合医療センター経営評価委員会（以下「経営評価委員会」という。）において、今後も和泉市立病院新改革プランに代わって計画した本経営強化プランに基づく進行管理及び評価を頂き、歩みを止めずに当センターの病院改革に取り組んでいくものである。

なお、国等の動向、取巻く医療環境の変化により、必要に応じて計画を更新する場合がある。

## I. 病院事業のこれまでの取組

### 1. これまでの経過

旧和泉市立病院（以下「旧病院」という。）は、昭和 38 年に病床数 60 床の「公立和泉病院分院」（泉大津市・和泉市病院組合）として開院した。その後、昭和 47 年に設置主体を組合から市に変更し、「和泉市立病院」として発足して以後、診療機能の充実を図るため、中央館の増築や、診療科の拡充、救急医療の実施などに取り組み、地域医療の中核を担ってきた。

平成 10 年頃から、当院においても、他の公立病院と同様、臨床研修医制度の改正による医師不足等によって経営状況が急激に悪化し、平成 19 年度には経常損失約 16 億円、不良債務（資金不足）約 20 億円を計上する経営危機に陥った。

このような中、平成 21 年 3 月に策定した「和泉市立病院経営健全化実施計画（公立病院改革プラン）」は、平成 20 年度から平成 27 年までを計画期間とし、平成 25 年度に経常収支の黒字化、平成 27 年度に不良債務の解消を目標に、がんセンターの開設等による収益増や、職員数の削減等による経費節減に取り組むという内容であった。

その後、「和泉市立病院経営健全化実施計画（公立病院改革プラン）」に基づき経営改善が進められたが、「救急医療の再開」、「慢性的な赤字体質」、「施設の老朽化」という病院運営の根幹とも言える 3 つの課題については解決の目途が立たなかった。

このことから、医療や経営等の専門家である外部委員からなる「和泉市立病院あり方検討委員会」を組織し、その答申を踏まえ市議会での審議を経て、当院を公設民営化（指定管理者制度の導入）することとし、事業者を公募のうえ、平成 26 年 4 月から指定管理者医療法人徳洲会による運営を開始した。

指定管理者による運営開始後は、救急医療の一部再開、一般会計からの赤字補てん補助金の解消により、慢性的な赤字体質からの脱却を図ることができた。もう一つの課題である施設の老朽化については、病院の経営及び市の財政状況は厳しく、建て替えは非常に困難を余儀なくされていたが、指定管理者制度を導入したことにより、民間のノウハウを活用することによる建設費用の抑制が見込まれたほか、指定管理者との間で、建設費用を折半することに合意できたことから、平成 28 年 4 月から新病院の建設に着手し、平成 30 年 3 月に完成、同年 4 月に当センターが開院した。

### 2. 指定管理者制度導入以降の状況

#### （1）運営状況

指定管理者制度導入前の平成 25 年度入院・外来患者数は 1 日平均入院が 160 人、外来が 520 人となっていたが、令和 4 年度には 1 日平均入院が 310 人（午前退院・午後入院含む）、外来が 1,058 人となり、指定管理者制度導入前と比較すると約 2 倍の数値となっている。

収支についても、平成 25 年度はマイナス約 21 億円となっていたが、令和 4 年度には約 21 億円と大幅な増益となった。また、常勤医師数についても、平成 25 年度は 50 人であったが、令和 4 年度は 121 人と大幅な増員となった。

○ 常勤医師数の推移（各年4月1日時点） （単位：人）

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
	50	45	47	48	54	82	97	111	120	121	131

○ 入院患者数（1日平均）の実績 （単位：人）

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
入院	160	166	201	218	230	299	309	295	309	310	—

※入院患者数は、午前退院・午後入院も各1カウントとしている。

○ 外来患者数（1日平均）の実績 ※午前退院・午後入院含む （単位：人）

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
外来	520	483	508	534	559	850	970	936	1,030	1,058	—

○ 収支の推移 （単位：百万円）

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
	▲2,114	▲335	▲207	▲4	40	1,154	818	2,217	2,553	2,172	—

○ 病床稼働率の実績（許可病床307床で算出） （単位：％）

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
	65.5	68.9	71.0	74.9	97.3	100.7	96.2	100.6	101.1	—

○ 診療単価の実績 （単位：円）

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
入院	50,603	49,584	48,280	48,899	56,946	61,151	71,773	71,879	77,726	—
外来	11,380	14,016	13,938	13,657	16,447	19,047	21,223	22,286	24,172	—

○ 経常収支比率の実績 （単位：％）

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
	93.7	96.6	99.9	100.7	112.8	107.3	118.4	119.4	117.5	—

## (2) 地域がん診療連携拠点病院

旧病院時（平成 22 年度）にがんセンターを設置し、大阪府下の公立病院では初となる緩和ケア病棟を整備した。平成 23 年度からは大阪府指定のがん診療拠点病院になり、医療の特色のひとつとして取り組んできた。

平成 30 年 4 月 1 日に新病院として当センターが開院し、放射線治療装置トモセラピーの設置、緩和ケアや化学療法におけるチーム医療の推進、情報提供・相談体制の確立など、より充実したがん医療を提供できる体制となった。

また、令和 3 年 3 月、泉州二次医療圏では市立岸和田市民病院に続いて 2 番目、大阪府内では 17 番目となる地域がん診療連携拠点病院の国指定を受けた。

令和 3 年 4 月 1 日から 2 年間の指定（以降更新）で、医療圏域のがん患者を受入れ、肺がん、消化器がん、乳がん、婦人科がん等に対し、外科治療、放射線治療、化学療法を実施しており、当センターの緩和ケア病床 24 床は常時満床に近い稼働となっている。

令和 2 年 1 月から 12 月における当センター内がん登録数は 1,442 件、相談件数は 1,316 件となっている。また、令和 3 年 8 月にがんゲノム医療連携病院に指定され、がんゲノム医療を開始した。

厚生労働省が示す地域がん診療連携拠点病院については以下のとおりである。

### [趣旨]

全国どこでも質の高いがん医療を提供することができるよう、がん医療の均てん化を目指す。

### [指定要件]

1. 診療体制（診療機能、従事者、医療施設）
2. 診療実績（患者登録数、悪性腫瘍手術件数、放射線治療等患者数）
3. 研修の実施体制
4. 情報の収集提供体制（がん相談支援センター、がん登録、情報提供・普及啓発）
5. 臨床研究及び調査研究
6. PDCA サイクルの確保
7. 医療に係る安全管理

## (3) 地域医療支援病院

地域医療支援病院とは、平成 9 年 4 月の医療法改正で制度化された医療施設機能の体系化の一環で、主な役割は、地域完結型医療における中心的な役割を担うものとなっている。

地域の診療所等のかかりつけ医が初期対応を受け持ち、専門的治療や高度検査、入院治療、救急医療等を受け持つ地域の中核病院として当センターは、令和 4 年 3 月、地域医療支援病院の承認要件を満たし大阪府知事から承認を受けた。

地域の医療機関に MRI、CT など紹介により引き続き医療機器を利用いただいている。当センターにおいて検査・読影を行い、結果を素早く報告し、少しでも診療の一助になるよう日々努めている。また、地域の医療従事者に対する研修として、全身性エリテマトーデス、顕微鏡的多発血管炎の治療の考え方や、肺がん治療最新の進歩をはじめとして、令和 4 年度は研修会を 16 回開催し、延べ 293 人の地域の医療従事者が参加した。和泉の

地域医療を考えるシンポジウムも行った。

○ 紹介率、逆紹介率の推移 (単位：%)

年度	H30	R1	R2	R3	R4
紹介率	51.8	54.7	64.4	68.8	72.9
逆紹介率	45.6	68.5	84.9	88.6	91.7

※承認要件上の数値であり、公表上の数値とは異なる。

厚生労働省が示す地域医療支援病院については以下のとおりである。

[趣旨]

医療施設機能の体系化の一環として、患者に身近な地域で医療が提供されることが望ましいという観点から、紹介患者に対する医療提供、医療機器等の共同利用の実施等を通じて、第一線の地域医療を担うかかりつけ医、かかりつけ歯科医等を支援する能力を備え、地域医療の確保を図る病院として相応しい構造設備等を有する病院。

[役割]

- ・ 紹介患者に対する医療の提供（かかりつけ医等への患者の逆紹介も含む）
- ・ 医療機器の共同利用の実施
- ・ 救急医療の提供
- ・ 地域の医療従事者に対する研修の実施

[承認要件]

- ・ 開設者は、国、都道府県、市町村、社会医療法人、医療法人等であること。
- ・ 紹介患者中心の医療を提供していること。
  1. 紹介率が80%以上であること。
  2. 紹介率が65%以上であり、かつ、逆紹介率が40%以上であること。
  3. 紹介率が50%以上であり、かつ、逆紹介率が70%以上であること。
- ・ 救急医療を提供する能力を有すること。
- ・ 建物、設備、機器等を地域の医師等が利用できる体制を確保していること。
- ・ 地域医療従事者に対する研修を行っていること。
- ・ 200床以上の病床を有すること。
- ・ 医療法に規定する施設を有し、構造設備が要件に適合すること。

[患者、病院の利点]

- ・ 各医療機関の役割分担により、必要かつ良質な医療が身近に受けられる。
- ・ 事前予約による待ち時間が軽減される。
- ・ 診療情報の共有により検査の重複を回避でき、時間や費用の負担が軽減できる。
- ・ 地域医療支援病院と地域かかりつけ医との安心・安定した医療の支援ができる。
- ・ 入院加算が得られ、入院収益の増収により、病院経営の安定に繋がる。

#### (4) 救急医療

平成28年度から令和4年度における当センターの救急患者数及び和泉市消防本部救急搬送件数の推移は下表のとおりである。

当センターがオープンした平成30年4月から24時間365日体制で救急医療を実施しており、受入件数が大幅に増加したが、令和2・3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により受診控え等による救急搬送件数の減少に伴い、当センターにおいても受入件数が減少した。

今後も更なる救急体制強化に取り組み、救急患者の受入数を増やし、救急搬送受入率について改善を図り地域医療に貢献していく。

○ 救急患者数の推移

(単位：人)

年度		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
救急患者数		10,080	10,370	14,820	14,874	10,208	12,710	13,852
うち救急搬送者	小児科	410	417	447	454	252	335	530
	内科・外科系	1,506	1,564	3,079	3,103	2,553	2,545	3,068
	合計	1,916	1,981	3,526	3,557	2,805	2,880	3,598

○ 和泉市消防本部救急搬送件数の推移

(単位：件、%)

年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
当センター	1,363 (16.5)	1,329 (15.7)	2,351 (26.3)	2,303 (25.7)	1,780 (23.8)	1,779 (21.4)	2,185 (22.5)
市内他病院	3,693 (44.6)	3,971 (47.0)	3,798 (42.4)	3,657 (40.8)	3,269 (43.6)	3,556 (42.9)	3,796 (39.0)
市外病院	3,222 (38.9)	3,151 (37.3)	2,804 (31.3)	3,004 (33.5)	2,438 (32.6)	2,964 (35.7)	3,748 (38.5)
合計	8,278 (100.0)	8,451 (100.0)	8,953 (100.0)	8,964 (100.0)	7,487 (100.0)	8,299 (100.0)	9,729 (100.0)

※和泉市消防本部 医療機関別搬送件数より

○ 和泉市消防本部からの救急患者受入率

(単位：%)

年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
消防本部からの救急患者受入率	16.5	15.7	26.3	25.7	23.8	21.4	22.5

(5) 災害時医療・感染症対策

災害時、当センターは市地域防災計画等に基づき、重要な医療提供拠点である。平成30年10月に当センターは災害対応マニュアルを作成し、あらゆる災害に備え、関係機関と共同で年1回災害時医療訓練を実施している。また、医療提供体制の確認、受入可能状況の情報伝達、トリアージ、救急搬送等の訓練を通じ、共通認識を確認し、災害時に機能できるように備えている。

今般の新型コロナウイルス感染症の対応において、当センターは、診療・検査医療機関、軽症・中等症・重症患者の入院受入れ、また、新型コロナウイルスワクチンの集団接種会場と複数の機能を担い、地域の中核的な医療機関としての役割を可能な限り果たしてきた。

感染症対策については、「経済財政運営と改革の基本方針 2020」（令和 2 年 7 月 17 日閣議決定）では、感染症への対応の視点も含めて、質が高く効率的で持続可能な医療提供体制の整備を進めるため、可能な限り早期に工程の具体化を図るとされている。本来、感染症の治療については、法律による感染症の分類により対応すべき医療機関として感染症指定医療機関が決められていることから、当センターは、大阪府と新興感染症に備えた医療措置協定を締結し、第一種協定指定医療機関として指定されている。大阪府知事の要請に応じて最大 30 床の病床確保を行う。

また、新型コロナウイルス感染症等新興感染症治療を行う診察室や待合スペース狭小等の課題に対し、感染症対策の強化等の為、増改築を行うことで検査場所及び専用病床等の確保により受入体制強化を図り、市と指定管理者が連携して取り組んでいく。

## （6）医療機器の充実

医療機器において、当センターは開院時に必要となった機器を新規導入し、翌年度以降も、医療環境のさらなる充実を図っているところであるが、旧病院時から使用している医療機器・検査機器等の更新が必要であり、近年の医療ニーズや診療体制等を踏まえ、必要性や優先度を確認し、今後も更新していく。

なお、主な医療機器の導入状況は下表のとおりである。

### ○医療機器導入状況

購入年度	医療機器名
H26	320 列 CT
H29	放射線治療装置トモセラピー、3.0 テスラ MRI、血管造影装置、一般撮影装置 2 台、デジタル X 線 TV システム、SPECT 診断装置
H30	1.5 テスラ MRI、80 列 CT、歯科口腔外科開設用医療機器、一般撮影装置
R1	3D 画像診断装置、気管支内視鏡システム、心臓カテーテルモニタリングシステム
R2	手術支援ロボットダヴィンチ
R3	心臓血管外科用医療機器
R4	健診用・病理検査用等医療機器

### 3. 経営強化プランにおける6つの視点の検証

#### (1) 役割・機能の最適化と連携の強化

##### ① 地域医療構想等を踏まえた当センターの果たすべき役割・機能

当センターは、高度急性期病床283床（内、ICU8床）、回復期病床（緩和ケア病床）24床の合計307床の病床で運用しており、需要の高いがん医療、難病医療、呼吸器疾患及び政策的医療として小児医療を実施している。今後は、救急患者の受入れ強化・拡充を図るため、令和7年度増築棟開設時に合わせ高度急性期病床283床のうち最大24床を高度治療室（HCU）へ転換を図る。本計画期間中の令和7年～9年度についても、高度急性期機能を中心とした医療を実施していく方針であり、病床機能・病床数に変更はない。

この先、人口減少や高齢化社会が進む中、地域医療構想を踏まえ、当センターは地域における基幹的な公的医療機関として、地域医療確保のため重要な役割を担っていく必要があり、医療ニーズの質・量の変化や労働力人口の減少を見据え、質の高い医療を効率的に提供できる体制づくりを構築し、医療機関の機能分化・連携に取り組む必要がある。

なかでも、救急、小児、災害、感染症についての医療提供が特に重要視されていることから、当センターとしては、市内の医療機関だけでなく、泉州二次医療圏の医療機関とも連携を図り、高度急性期医療を実施している協力・支援病院である岸和田徳洲会病院（三次救急医療機関）と電子カルテの相互利用により、日常の診療内容が確認できるなど救急患者の安全性向上や切れ目のない病院間の連携、さらに、診療科目や病院の特色を補完しあいながら運営することにより地域における医療機能の共有化など連携強化を図っていく。

年度	高度急性期	回復期
R5	283床<下記内訳> 特定集中治療室管理料1：8床 小児入院医療管理料4：17床 急性期一般入院料1：258床 (専ら悪性腫瘍を診療する病床を含む)	24床 緩和ケア病棟入院料1
R7 ～ R9	283床<下記内訳> 特定集中治療室管理料1：8床 ハイケアユニット入院医療管理料:最大24床 小児入院医療管理料4：17床 急性期一般入院料1：234床 (専ら悪性腫瘍を診療する病床を含む)	24床 緩和ケア病棟入院料1

## ② 地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割・機能

平成 25 年度には「和泉市市民を中心とした医療と介護の連携推進条例」を施行しており、これに基づき、「和泉市医療と介護の連携推進審議会」及びその専門部会が設置されている。

当センターは、地域の実情も把握し、これからの社会にふさわしい医療と介護の連携を強化する地域の中核病院として、がん地域連携パス制度や連携登録医制度の導入、地域医療支援病院運営委員会の設置、地域の医療介護研修会などにより、市内の慢性期病院等の医療機関や介護施設等との連携に努めつつ在宅医療と介護を一体として提供できる体制の構築推進に寄与していく。

また、指定管理者である医療法人徳洲会は、新たに市内に特定施設入居者生活介護、認知症共同生活介護の介護施設を令和 6 年中（予定）に設け、住み慣れた地域での生活拠点を整備する。

医療と介護の連携目標

(単位：回)

年度	R5	R6	R7	R8	R9
地域医療支援病院運営委員会	4	4	4	4	4
地域の医療介護研修会	8	8	8	8	8

## ③ 機能分化・連携強化

指定管理者制度導入後、医師数、入院・外来患者数が増加するとともに、収支も大幅な増益となり黒字転換するなど経常収支は高水準となっている。

新病院建設時に計画していた医師数や外来患者数より大幅増加したことから、診療スペース、待合スペースの外来機能が低下してきていることから、診療の実情を踏まえ、地域医療提供体制との連携も図ったうえで、増築棟を新たに建設（令和 7 年度完成予定）及び現建築物の改修を行い、外来機能スペース等を拡張する。がんセンターにおいては、外来化学療法室、がん相談支援センターを拡張、新たにがんゲノム外来を設置し、更なる充実を図る。また、増築棟には市民の医療ニーズに沿った難病センター、呼吸器センターを新たに設置し、更なる医療サービス向上に努める。

また、連携強化においては、令和 4 年 3 月に「地域医療支援病院」の承認を受け、地域の医療機関とより密に連携し、紹介率・逆紹介率の向上に取り組むと同時に、小児医療を専門とする地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪母子医療センターと令和 4 年 10 月に「地域医療における住民の健康と健やかな成育支援等に関する連携協定」を締結し、更なる質の高い医療提供及び地域医療の連携強化に取り組む。医師等の派遣については、地域において、派遣ニーズがないため実施していないが、今後の状況に応じて検討を行い、医療水準の向上と持続可能な経営基盤の確保を行っていく。

年度	R5	R6	R7	R8	R9
外来機能向上	増築棟建築の設計	増築棟建築	がんセンター、難病センター、呼吸器センター運営		

#### ④ 医療機能や医療の質、連携の強化等に係る数値目標

本プランの最終年度である令和 9（2027）年度を目途に次の数値目標を設定

年 度	R5	R6	R7	R8	R9
救急搬送者数（人）	3,800	3,900	4,000	4,100	4,200
手術件数（手術室内）	3,102	3,326	3,551	3,775	4,000
患者満足度（％）	82.1	82.8	83.6	84.3	85.0
在宅復帰率（％）	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0
クリニカルパス利用率（％）	52.8	53.4	53.9	54.5	55.0
紹介率（％）	73.3	73.7	74.2	74.6	75.0
逆紹介率（％）	92.0	92.3	92.5	92.8	93.0
臨床研修医の受入件数（人）	8	9	9	9	9
健康・医療相談件数（件）	2,100	2,100	2,100	2,100	2,100

#### ⑤ 一般会計負担の考え方（繰出基準の概要）

##### (1) 救急医療の確保に要する経費及び小児医療に要する経費

（指定管理者に交付する指定管理料）

※当該年度の普通交付税の算定で定められる 1 病床あたりの単価に病床数を乗じた額を上限。

##### (2) 病院の建設改良に要する経費（建設改良費、企業債元利償還金）の 1/2

（ただし、平成 14 年度までに着手した事業の企業債元利償還金は 2/3）

年度	R5	R6	R7	R8	R9
指定管理料	普通交付税の算定で定められる 1 病床あたりの単価(72 万円) ×病床数	普通交付税の算定で定められる 1 病床あたりの単価×病床数			
市償還金	病院の建設改良に要する経費×1/2				

#### ⑥ 住民への取組周知

平成 30 年 4 月に新病院として開院した当センターは、設計段階の旧病院時代、1 日の平均外来患者数 559 人と比較すると令和 4 年度 1,058 人と約 2 倍に激増する状況となり、診察室や待合スペース狭小等の課題が生じている。

そのため、利用者の利便性の向上及び感染症対策の強化等を目的として、当センターの増改築を行うことで、さらに高度急性期医療、急性期医療、回復期医療（緩和）に注力していくことを、市ホームページや院内掲示等により市民等に周知する。

年度	R5	R6	R7	R8	R9
増改築等に関すること	広報 ホームページ 院内掲示	ホームページ 院内掲示	広報 ホームページ 院内掲示	ホームページ 院内掲示	ホームページ 院内掲示

## (2) 医師・看護師等の確保と働き方改革

### ① 医師・看護師等の確保数値目標

平成 26 年 4 月より指定管理者である医療法人徳洲会が運営を行っている。平成 30 年 4 月に新築移転し、病院機能の拡大に伴い職員数は増加となった。

今後も職員確保、定着を向上させていくために「魅力ある職場づくり」を進めていく。そのためには、「働きがい」「働きやすさ」の意識向上が重要である。職員ひとりひとりが市民から信頼されているという意識をもてるような職場環境づくり、日進月歩する医療を学ぶ環境、知識、技術習得するための研修支援の提供、話し合える職場環境を整え職員確保に努める。

(単位：人)

年度 (常勤)	R5	R6	R7	R8	R9
医師	131	137	140	140	140
看護師	338	358	365	365	365
技師	126	130	135	140	145
薬剤師	27	30	32	35	38

### ② 臨床研修医の受入れ等を通じた若手医師の確保数値目標

多くの診療科を取り揃えた基幹型臨床研修病院として令和 3 年度は 7 人、令和 4 年度は 7 人の初期臨床研修医の受入を行っており、新たに令和 5 年度は 8 人、令和 6 年度は 9 人を受け入れる予定である。また、専門研修プログラムもあるため、初期研修終了後も当院で継続して研修が可能である。令和 6 年度に卒後臨床研修評価 (JCEP) を取得予定。研修の質の改善・向上に努めている病院としてさらに認知度を高め、若手医師の確保を図る。

(単位：人)

年度	R5	R6	R7	R8	R9
研修医受入	8	9	9	9	9

### ③ 医師の働き方改革への対応

令和 6 年度より医師の時間外労働の上限規制が開始されることから、宿日直許可申請をはじめ、医師の負担軽減を図るべく職員数の確保、適切な労務管理の推進、

ワークシェア・タスクシフトの推進などを組織的に取り組み、A 水準（年 960 時間未満）を目指す。宿日直許可については 3 つの区分で許可済、2 つの区分を許可申請予定。

（単位：人）

年度	R6	R7	R8	R9
時間外労働	A 水準（960時間未満）			

### （3）経営形態の見直し

平成 26 年 4 月から指定管理者制度を導入しており、指定管理者の民間のノウハウを活かしながら健全経営に向けた取り組みを行っている。導入後は、救急医療の再開、市からの赤字補填補助金の解消、当センターの建設が実現し、着実に病院機能が再生し、医療の安定提供など効果が現れている。なお、この経営形態の見直しについて、平成 30 年 3 月に公表された「地方公営企業の抜本的な改革等に係る先進・優良事例集」（総務省自治財政局公営企業課）に掲載され、先進事例として評価された。

さらに、平成 30 年度に 32 診療科 82 人の医師体制にて当センターがオープンしてからは、救急医療の実施、放射線治療装置トモセラピーの導入、MRI・CT など検査機器の充実、手術支援ロボットダヴィンチの導入、国の地域がん診療連携拠点病院の指定、大阪府の地域医療支援病院の認定などの取り組みにより医療水準の向上を図った。

医療水準向上の主な取り組みとして、①医師確保、②救急・急性期医療においては、救急科の設置、24 時間 365 日体制での救急医療を実施、③がん医療においては、高精度放射線治療装置トモセラピーを整備、外来化学療法室・緩和ケア病棟の充実、④難病センター、呼吸器センターの整備、⑤その他の医療機能においては、内分泌・糖尿病内科、脳神経内科の新設、人工透析室の整備等を行った。

これらにより、想定をはるかに超える入院・外来数となり、大幅に収支が好転し経営健全化を達成できた。なお、常勤医師数の推移、入院・外来患者数や病床稼働率、診療単価、経常収支比率の実績と目標数値との比較については、下表のとおりである。

今後においても医療水準の向上とともに、継続的に外部有識者による経営評価委員会において運営状況を点検、評価して、持続可能な経営基盤の確保を行っていく。

### 【経営強化プランにおける数値目標】

#### 経営強化プランにおける数値目標設定の考え方

- ・令和 6 年 4 月から増築工事、令和 7 年新館増築棟オープン予定。
- ・令和 7 年 8 月から本館改修工事、令和 8 年全体オープン予定。
- ・待合スペースの拡張、診察室の増室（46 室⇒約 70 室）を図る。
- ・救急医療の受入拡充、感染症対策に伴う病床等の受入体制強化を図る
- ・がんセンター拡張による診察室の増室（4 室⇒約 8 室）を図る。
- ・化学療法用ベッドの増床（17 床⇒約 30 床）を図る
- ・透析室拡張による透析用ベッドの増室（12 床⇒約 30 床）を図る。
- ・健診センター拡張による人間ドック、特定健診の受入拡充を図る。

○入院患者数等の目標数値

年度	R6	R7	R8	R9
1日あたり患者数（人）	292	292	295	295
病床利用率（％）	95	95	96	96
入院診療単価（円）	77,880	77,880	77,880	77,880

○外来患者数等の目標数値

年度	R6	R7	R8	R9
1日あたり患者数（人）	1,008	1,008	1,050	1,100
外来診療単価（円）	23,150	23,150	23,150	23,150

○和泉市消防本部からの救急患者受入率

年度	R6	R7	R8	R9
救急搬送受入率（％）	28.0	28.0	30.0	30.0

（４）新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組

今般の新型コロナウイルス感染症の対応において、当センターは、診療・検査医療機関、軽症・中等症・重症患者の入院受け入れ病院及びワクチンの集団接種会場と複数の機能を担い、地域の中核的な医療機関としての役割を可能な限り果たしてきたが、感染症への対応を念頭に置いて建設された建物ではないこともあり、設備・人員体制が不十分なもとでは自ずと限界があった。

当センターは、感染症対策強化等のため、増築棟（令和 7 年度完成予定）を整備することで感染拡大時に活用しやすい病床や転用しやすいスペース等を整備し受入体制強化を図ります。また、感染拡大時における各医療機関の間での連携・役割分担の明確化、感染拡大時を想定した専門人材の確保・育成、感染防護具等の備蓄、院内感染対策の徹底、クラスター発生時の対応方針等について、より具体的な内容に医療関連感染防止マニュアルを改訂し、それを実践することにより、新興感染症の感染拡大時に備えてまいります。

また、大阪府が策定する第 8 次医療計画（令和 6 年度～）の記載事項として「新興感染症等の感染拡大時の医療」が盛り込まれることになっていきますので、これと整合性のとられた内容となるよう改定します。

年度	R5	R6	R7	R8	R9
医療関連感染防止マニュアル	国基準に合わせ改訂				

## (5) 施設・設備の最適化

### ①施設・設備の適正管理と整備費の抑制

平成 26 年 4 月から指定管理者制度により医療法人徳洲会が運営を行い民間のノウハウを活かした経営改善に取り組んだ結果、当センターの建設が実現し、着実に病院再生し、医療の安定提供など効果が現れている。

患者数の増加に伴う診察室や待合スペース狭小等による課題に対し、利用者の利便性の向上及び感染症対策強化等を目的とした当センターの増築棟を整備することについては、指定管理者の専門的な知見を活用すること等により整備費の抑制を図る。

年度	R5	R6	R7	R8	R9
増築棟の整備 及び 本館改築工事	増築棟建築 の設計	増築棟工事	増築棟工事 本館改築工事	—	—

### ②デジタル化への対応

電子カルテ及びマイナンバーカードの健康保険証利用（オンライン資格確認）並びにその他各種情報システム等を活用し、医療の質の向上、医療情報の連携及び働き方改革の推進と病院経営の効率化を目指す。なお、電子カルテについては、指定管理者である医療法人徳洲会が使用するシステムを平成 26 年度から導入し三次救急医療機関である協力・支援病院の岸和田徳洲会病院とシステム連携を行っている。また、同法人が令和 5 年度から指定管理を開始した本市の和泉診療所とも連携を開始した。

万一、サイバー攻撃による被害が生じた場合であっても、独自システムによりそれらを最小限に抑えられるよう情報セキュリティ対策に努める。

(単位：件)

年度	R5	R6	R7	R8	R9
情報セキュリティ対策	医療情報システムの安全管理に関するガイドラインに基づき対策				
漏洩・被害	0	0	0	0	0

## (6) 経営の効率化等

### ① 経営指標に係る数値目標

指定管理者制度導入により収支黒字を達成している状況である。

計画期間中の経営に関する数値目標は、指定管理者が計画する別表 1（参考資料）令和 4 年度収支計画である。

② 経営強化プラン対象期間中の各年度の収支計画等

○経常収支比率の実績、目標数値比較 (単位：%)

年度	R6	R7	R8	R9
経常収支比率	109	109	108	108
修正医業収支比率	108	108	107	107

#### 4. 公立・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証要請の対応

国は、令和元年9月に個別の公立・公的医療機関等に係る急性期機能等の診療実績等によるデータ分析に基づいて、実績が少ない又は診療領域が類似かつ地理的に近接する病院がある医療機関を公表し、地域医療構想の取組を推進すべく具体的対応方針の再検証要請を通知した。

大阪府内医療機関においては、当センターを含め11医療機関が再検証要請となり、令和2年3月30日の第53回大阪府医療審議会において、各医療圏での審議を踏まえ、2医療機関が継続協議となり、残りの9医療機関が方向性について合意がなされた。

当センターにおいては、厚生労働省が再検証した分析データは平成29年度の旧市立病院時のものであったことから、平成30年度新築移転後の診療実績及び医療圏域における当センターの役割が再認識され、再編統合等をする必要なく現状の医療方針にて合意がなされたところである。

## Ⅱ. 新たな展開～具体的な取組～

### 1. 医療環境の向上

当センターはオープンして5年が経過したが、入院患者等利用者が快適に使用していただけるよう適正な施設の維持管理に努めてきた。

令和4年度には、1日平均の外来患者数1,058人となり、新改革プランでの想定数(平成30年度549人)をはるかに上回り、外来待合スペースが手狭な状況になっている。

医師確保に伴い、診療コマ数を増加することができた反面、外来診療スペース等が不足している。さらに、当センターの診療の特色のひとつであるがん診療においては、国の地域がん診療連携拠点病院の指定を受け、がん治療の治験・臨床試験等のがんセンターの機能拡充や化学療法スペースの更なる確保が課題である。

また、2024年4月より難病診療連携拠点病院に指定されたことで泉州医療圏内の難病疾患患者に対して早期診断、早期治療を行える地域と連携した体制づくりが課題である。加えて、国の医療政策に則った在院日数の短縮化を見通して、地域を巻き込み、専門医療の継続が可能になるような体制づくりが必要になる。

このことから、外来機能を中心としたがん医療、難病医療、呼吸器医療、感染症対策に対応する増築棟を新たに建築し、引き続き、質の高い医療サービス向上に取り組む。

また、災害時医療についても強化が必要であり病院全体として取り組んでいく。

### 2. 経営強化プランの実施状況の点検、評価、公表

当センターにおいては、附属機関として管理運営が適切に実施されているか確認、評価し、医療水準の維持及びサービスの向上につなげるため外部有識者で組織する経営評価委員会を設置し、中間期及び決算期において年2回評価を頂いている。

経営評価委員会には、指定管理者の医師・看護師等が参加し、指定管理者による公立病院として期待される役割・機能の発揮状況等について、本経営強化プランの指標及び進捗状況を評価シートに基づき点検、評価、検証を行い、その結果を速やかに公表し、今後も点検・評価結果を基に医療サービスの向上のため病院改革に取り組んでいく。

# 別紙 1 収支計画書（指定管理者）

（単位：人、円）

		R4年度 実績	R5年度 見込	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
入院	1日平均入院患者数	285.7	292.0	292.0	292.0	295	295
	1人1日当り診療額	77,726	77,880	77,880	77,880	77,880	77,880
外来	1日平均外来患者数 ※1	1,058.0	1,122	1,117	1,122	1,202	1,266
	1人1日当り診療額	23,136	23,150	23,150	23,150	23,150	23,150

（単位：百万円）

項 目		R4年度 実績	R5年度 見込	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
入院収入計		8,802	9,006	9,006	9,006	9,006	9,006
外来収入計		6,072	6,337	6,337	6,337	6,760	7,182
診療収入合計		14,874	15,343	15,343	15,343	15,766	16,188
室料差額収入		131	133	133	133	135	135
文書料収入		23	26	26	26	28	30
その他収入		318	320	320	320	325	330
保険等調整増減		▲132	▲136	▲136	▲136	▲140	▲144
医業収入合計		15,214	15,686	15,686	15,686	16,114	16,539
医薬品費		3,445	3,984	3,984	3,984	4,109	4,218
医療消耗品費		1,037	1,065	1,065	1,065	1,098	1,127
その他		377	469	469	469	483	496
医業原価合計		4,859	5,518	5,518	5,518	5,691	5,841
医療機器リース料		54	55	55	55	57	59
医療機器減価償却費		36	37	37	37	38	39
医師給与		1,338	1,375	1,375	1,375	1,478	1,478
その他		5,030	5,166	5,166	5,166	5,328	5,468
人件費合計		6,368	6,541	6,541	6,541	6,806	6,946
水道光熱費		177	182	182	206	226	232
保守衛生費		12	12	12	12	13	13
その他		1,927	1,979	1,979	1,979	2,041	2,095
医業経費合計		2,116	2,173	2,173	2,197	2,280	2,340
医業費用合計		13,433	14,324	14,324	14,349	14,871	15,225
医業利益		1,781	1,362	1,362	1,337	1,243	1,314
減価償却費		25	26	26	26	26	27
その他費用計		25	26	26	26	26	27
その他収益		1,208	547	547	547	564	579
医業外収益合計		1,208	547	547	547	564	579
その他費用		514	528	528	528	544	559
医業外費用合計		514	528	528	528	544	559
経常利益		2,450	1,355	1,355	1,330	1,236	1,307
臨時収益		21					
臨時費用		338					
協力負担金		152	156	156	156	161	165
税引前利益		1,939	1,199	1,199	1,174	1,075	1,141
医業費収支比率		113%	110%	110%	109%	108%	109%
修正医業収支比率		112%	108%	108%	108%	107%	107%
経常収支比率		118%	109%	109%	109%	108%	108%
給与費率		42%	42%	42%	42%	42%	42%
材料費率		32%	35%	35%	35%	35%	35%

※1 年延外来患者数÷診療日数

※2 徳洲会グループ全体での計画調整により変更の可能性あり

## 別紙2 収支計画書(病院事業会計)

### 収益の収支

(単位:百万円、%)

区分		年度					
		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
収	1. 医 業 収 益 a	217	228	228	228	228	228
	(1) 料 金 収 入	0	0				
	(2) そ の 他	217	228	228	228	228	228
	2. 医 業 外 収 益	565	556	484	462	461	444
	(1) 他会計負担金・補助金	66	66	66	66	66	66
	(2) 国(県)補助金	0	0	0	0	0	0
	(3) 長期前受金戻入	412	404	332	309	307	294
	(4) そ の 他	87	86	86	87	88	84
	経 常 収 益 (A)	782	784	712	690	689	672
	入	1. 医 業 費 用 b	1,154	1,129	1,010	955	922
(1) 職 員 給 与 費		0	0	0	0	0	0
(2) 材 料 費		0	0	0	0	0	0
(3) 経 費		25	68	68	68	68	68
(4) 減 価 償 却 費		908	840	721	666	633	616
(5) そ の 他		221	221	221	221	221	221
2. 医 業 外 費 用		83	74	74	74	74	71
(1) 支 払 利 息		74	74	74	74	74	71
(2) そ の 他		9	0	0	0	0	0
経 常 費 用 (B)		1,237	1,203	1,084	1,029	996	976
経 常 損 益 (A)-(B) (C)	▲ 455	▲ 419	▲ 372	▲ 339	▲ 307	▲ 304	
特 別 損 益	1. 特 別 利 益 (D)	0	0	0	0	0	0
	2. 特 別 損 失 (E)	0	0	0	0	0	0
	特 別 損 益 (D)-(E) (F)	0	0	0	0	0	0
純 損 益 (C)+(F)	▲ 455	▲ 419	▲ 372	▲ 339	▲ 307	▲ 304	
累 積 欠 損 金 (G)	13,857	14,276	14,648	14,987	15,294	15,598	
資 金 不 足 額	流動資産(H28まで貸倒引当金を除く)(ア)	2	2	2	2	2	2
	流動負債(翌年度償還企業債を除く)(イ)	2	2	2	2	2	2
	うち一時借入金	0	0	0	0	0	0
	翌年度繰越財源(ウ)	0	0	0	0	0	0
	当年度許可債で未借入又は未発行の額(エ)	0	0	0	0	0	0
	資金不足額(健全化法施行令第16条((イ)-(エ))-((ア)-(ウ)) (オ)	0	0	0	0	0	0
	健全化法第22条により算定した資金不足比率	-	-	-	-	-	-
経 常 収 支 比 率 $\frac{(A)}{(B)} \times 100$	63.2	65.2	65.7	67.1	69.2	68.9	
医 業 収 支 比 率 $\frac{a}{b} \times 100$	18.8	20.2	22.6	23.9	24.7	25.2	
地方財政法施行令第19条第1項により算定した資金の不足額(H)	0	0	0	0	0	0	
地方財政法による資金不足の比率 $\frac{(H)}{a} \times 100$	-	-	-	-	-	-	

資本的収支

区分		年度					
		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
収 入	1. 企 業 債	83	200	420	400	200	600
	2. 他 会 計 出 資 金	632	600	579	550	506	437
	3. 他 会 計 負 担 金	0	0	0	0	0	0
	4. 他 会 計 借 入 金	0	0	0	0	0	0
	5. 他 会 計 補 助 金	0	0	0	0	0	0
	6. 国 ( 県 ) 補 助 金	0	0	0	0	0	0
	7. 工 事 負 担 金	0	0	0	0	0	0
	8. 固 定 資 産 売 却 代 金	0	0	0	0	0	0
	9. そ の 他	480	374	353	325	352	356
	収 入 計 (a)	1,195	1,174	1,352	1,275	1,058	1,393
うち翌年度へ繰り越される 支出の財源充当額 (b)	0	0	0	0	0	0	
前年度同意等債で当年度借入分 (c)	0	0	0	0	0	0	
純計(a)-(b)+(c) (A)	1,195	1,174	1,352	1,275	1,058	1,393	
支 出	1. 建 設 改 良 費	83	200	420	400	200	600
	2. 企 業 債 償 還 金	1,162	987	945	888	874	812
	3. 他 会 計 長 期 借 入 金 返 還 金	0	0	0	0	0	0
	4. そ の 他	0	0	0	0	0	0
支 出 計 (B)	1,245	1,187	1,365	1,288	1,074	1,412	
差 引 不 足 額 (B)-(A) (C)	50	13	13	13	16	19	
補 て ん 財 源	1. 損 益 勘 定 留 保 資 金	0	0	0	0	0	0
	2. 利 益 剰 余 金 処 分 額	0	0	0	0	0	0
	3. 繰 越 工 事 資 金	0	0	0	0	0	0
	4. そ の 他	50	13	13	13	16	19
計 (D)	50	13	13	13	16	19	
補てん財源不足額 (C)-(D) (E)	0	0	0	0	0	0	
当年度許可債で未借入 又は未発行の額 (F)	0	0	0	0	0	0	
実質財源不足額 (E)-(F)	0	0	0	0	0	0	

一般会計等からの繰入金の見通し

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
収 益 的 収 支	261	260	260	260	260	258
資 本 的 収 支	632	600	579	551	506	437
合 計	893	860	839	811	766	695

○和泉市立総合医療センター経営評価委員会規則

平成26年6月25日

規則第35号

(趣旨)

第1条 この規則は、和泉市病院事業の設置等に関する条例（昭和47年和泉市条例第3号）第3条の2の規定に基づき、和泉市立総合医療センター経営評価委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(担当事務)

第2条 委員会は、市長の諮問に応じて、和泉市立総合医療センターの指定管理者による管理運営状況の評価及び和泉市立総合医療センター経営強化プランに基づく進行管理を行う。

(組織)

第3条 委員会は、委員6人以内で組織する。

2 委員会の委員は、病院経営、経理、地域医療その他医療に関し学識経験を有する者及び市長が必要と認める者のうちから、市長が委嘱する。

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、委員の互選により定める。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名する委員が、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。ただし、委員長が選任されていない場合その他委員長が招集できない場合は、市長が招集する。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

(委員会の召集の特例)

第7条 委員長は、災害その他の理由により委員会を招集することができない場合においては、前条の規定にかかわらず、書面その他の方法により議事を行うことができる。

(関係者の出席)

第8条 委員長は、必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させて意見を聴くことができる。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、病院事業担当部署において処理する。

(補則)

第10条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が定める。

附 則

この規則は、平成26年6月25日から施行する。

附 則 (平成29年規則第20号)

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則 (平成30年規則第9号)

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則 (令和2年規則第38号)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則 (令和6年規則第16号)

この規則は、令和6年4月1日から施行する。